

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウケン ガクシヤガクエン 学校法人 大覚寺学園								
フリガナ大学の名称	カキトシユツカク 嵯峨美術大学 (Kyoto Saga University of Arts)								
大学本部の位置	京都府京都市右京区嵯峨五島町1番地								
大学の目的	「大覚寺が始祖と仰ぐ嵯峨天皇並びに宗祖弘法大師の思想と実践に学び、その精神を現代の高等教育に活かすべく、美術教育を通して創造性の開発と人間性の涵養に努め、豊かで平和な社会の実現に貢献できる人材を育成する」ことを建学の精神とし、純粋美術の領域はもちろんのこと、広範な芸術文化の領域においても、意欲的に社会貢献を果たすことを目的とする。								
新設学部等の目的	近年の志願者及び入学者数の状況を踏まえ、芸術学部造形学科及びデザイン学科の収容定員の適正化を図るため、入学定員を造形学科12名増、デザイン学科33名増とする収容定員に係る認可申請を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	芸術学部 (Faculty of Arts)	年	人	年次人	人			年月 第 年次	京都府京都市右京区嵯峨五島町1番地
	造形学科 (Department of Fine Arts)	4	57 (45)	3年次 5	238 (190)	学士 (芸術学)	美術	令和7年4月 第1年次	
	デザイン学科 (Department of Design)	4	123 (90)	3年次 5	502 (370)	学士 (芸術学)	美術	令和7年4月 第1年次	
計		180 (135)	3年次 10 (10)	740 (560)					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当無し								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	—	講義 —科目	演習 —科目	実験・実習 —科目	計 —科目	—単位			
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
			教授	准教授	講師	助教	計		
	芸術学部造形学科		10 (9)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	16 (14)	0 (0)	52 (52)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	13 (12)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数5人	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)		
	小計（a～b）		9 (9)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	15 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
計（a～d）		10 (9)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	16 (14)			
芸術学部デザイン学科		10 (9)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	18 (16)	0 (0)		80 (80)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (9)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	17 (16)			

分	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数7人
	小計（a～b）		9 (9)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	17 (16)	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	
	計（a～d）		10 (9)	5 (3)	3 (4)	0 (0)	18 (16)	
計		20 (18)	9 (7)	5 (5)	0 (0)	34 (30)	0 (0)	132 (132)
既 設 分	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	小計（a～b）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
計（a～d）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
合計		20 (18)	9 (7)	5 (5)	0 (0)	34 (30)	0 (0)	132 (132)
職 種		専 属			そ の 他			計
事 務 職 員		21 (20)人			19 (19)人			40 (39)人
技 術 職 員		0 (0)			1 (1)			1 (1)
図 書 館 職 員		1 (1)			0 (0)			1 (1)
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)
計		22 (21)			20 (20)			42 (41)
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計	嵯峨美術短期大 学(必要面積 3000㎡) と共有
	校 舎 敷 地	0㎡	17,294㎡		0㎡		17,294㎡	
	そ の 他	0㎡	0㎡		0㎡		0㎡	
	合 計	0㎡	17,294㎡		0㎡		17,294㎡	
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計	嵯峨美術短期大 学(必要面積 3000㎡) と共有		
		7,647㎡ (7,647㎡)	17,518㎡ (17,518㎡)		3,311㎡ (3,311㎡)		28,476㎡ (28,476㎡)	
教室・教員研究室		教 室	52室		教 員 研 究 室	28室	大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 標本 点 点	大学全体	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
	大学全体	130126 [16431] (130126 [16431])	0 [0] (0 [0])	460 [57] (460 [57])	0 [0] (0 [0])	16246 16246		0 0
	計	130126 [16431] (130126 [16431])	0 [0] (0 [0])	460 [57] (460 [57])	0 [0] (0 [0])	16246 16246		0 0
スポーツ施設等	スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設		嵯峨美術短期大 学と共有 (5188.68㎡)	
	3951.00㎡		650.83㎡		586.85㎡			

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—	—	
	共同研究費等		200千円	200千円	200千円	200千円	—	—	
	図書購入費	2000千円	2000千円	2000千円	2000千円	2000千円	—	—	
	設備購入費						—	—	
	学生1人当り納付金		第1年次 1,755千円	第2年次 1,555千円	第3年次 1,555千円	第4年次 1,555千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、私立大学等経常費補助金、資産運用収入等							
既設大学の状況	大学等の名称	嵯峨美術大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	芸術学部 造形学科 デザイン学科 大学院 芸術研究科 芸術専攻	4 4 2	40 95 8	5 5 —	170 390 16	学士(芸術学) 学士(芸術学) 修士(芸術学)	1.18 《(1.14)》 1.19 《(1.15)》 1.17 《(1.13)》 0.81	平成13年度 平成23年度 平成17年度	京都市右京区嵯峨五島町1番地
既設大学の状況	大学等の名称	嵯峨美術短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	美術学科	2	150	—	300	短期大学士(美術)	1.26	昭和46年度	京都市右京区嵯峨五島町1番地
	附属施設の概要	該当無し							

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大覚寺学園 設置認可等に関わる組織の移行表

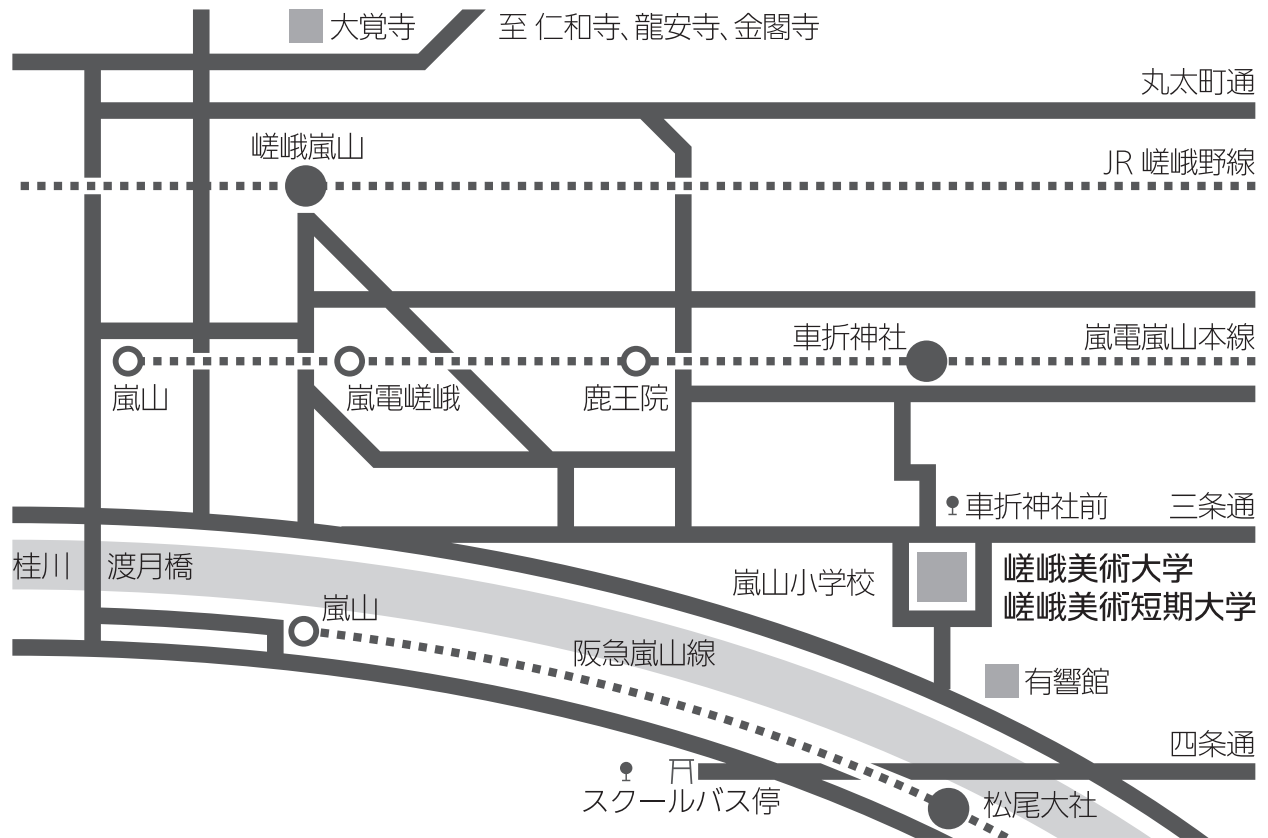
令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
嵯峨美術大学 芸術学部					嵯峨美術大学 芸術学部				
		3年次				3年次			
造形学科	45	5	190		造形学科	<u>57</u>	5	<u>238</u>	定員変更(12)
		3年次				3年次			
デザイン学科	90	5	370	→	デザイン学科	<u>123</u>	5	<u>502</u>	定員変更(33)
		3年次				3年次			
計	135	10	560		計	<u>180</u>	10	<u>740</u>	
嵯峨美術大学大学院 芸術研究科					嵯峨美術大学大学院 芸術研究科				
芸術専攻(M)	8	-	16	→	芸術専攻(M)	8	-	16	
計	8	-	16		計	8	-	16	
嵯峨美術短期大学 美術学科					嵯峨美術短期大学 美術学科				
	150	-	300	→		150	-	300	
計	150	-	300		計	150	-	300	

補足資料
組織移行表

都道府県内における位置関係 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学



大学への交通アクセス



- 阪急嵐山「松尾大社」駅下車、2km 徒歩約20分（スクールバス運行約5分）
- 京福嵐山線「車折（くるまざき）神社」駅下車、700m 徒歩5分
- JR 嵯峨野線「嵯峨嵐山」駅下車、1km 徒歩約15分
- 市バス・京都バス「車折（くるまざき）神社前」下車、350m 徒歩約3分

校舎、運動場等の配置図

本部キャンパス

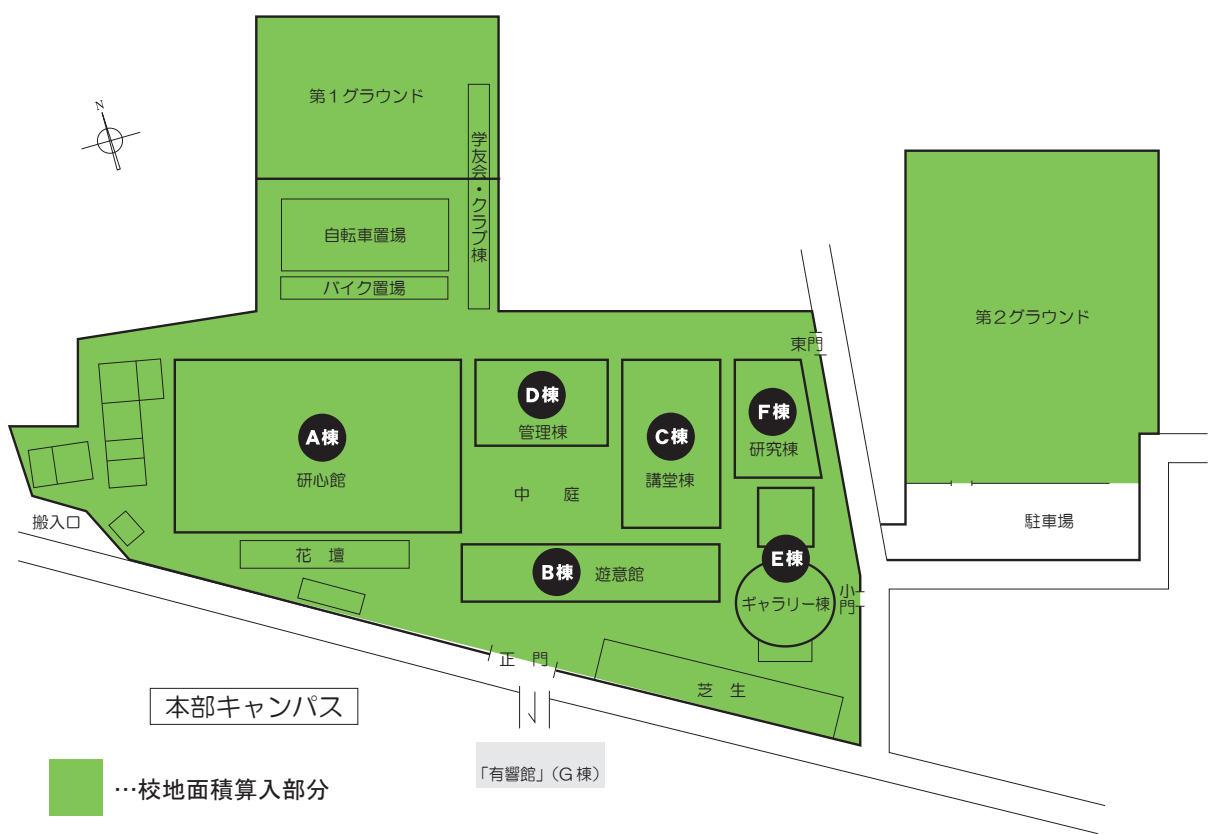
位置 京都市右京区嵯峨五島町1番地
 校地面積 16,986.33㎡ (全部所有)
 西側校地面積 227.15㎡ (借地)

第2グラウンド

位置 京都市右京区嵯峨蜻蛉尻町
 位置 京都市右京区嵯峨石ヶ坪町
 校地面積 3,951.00㎡ (全部所有)

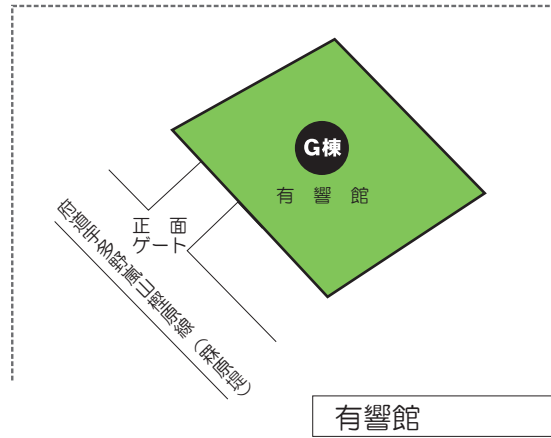
有響館

位置 京都市右京区嵯峨森原町8番地、7番地の3
 校地面積 2,304.89㎡ (全部所有)



嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学 校舎

- A 研心館・・・8,993.97㎡ 鉄筋コンクリート造5階建 (共用、主に嵯峨美術大学)
- B 遊意館・・・4,562.53㎡ 鉄筋コンクリート造7階建 (共用、主に嵯峨美術短期大学)
- C 講堂棟・・・4,201.51㎡ 鉄筋コンクリート造地下1階付6階建 (共用)
- D 管理棟・・・2,777.76㎡ 鉄骨、鉄筋コンクリート造地下1階付4階建 (共用)
- E ギャラリー棟・・・981.44㎡ 鉄骨、鉄筋コンクリート造3階建 (共用)
- F 研究棟・・・1,525.53㎡ 鉄筋コンクリート造5階建 (共用)
- G 有響館・・・4,115.21㎡ 鉄筋コンクリート造地下1階付4階建 (共用)
- 学友会・クラブ棟・・・506.00㎡ 鉄筋コンクリート造2階建 (共用)
- その他別棟・・・811.57㎡ (共用、主に嵯峨美術大学)



嵯峨美術大学 芸術学部 学則(案)

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育の目的と方法に則り、弘法大師空海の思想と実践に学び、その精神を現代の高等教育に活かすこと、その思想の実現を図る芸術教育を通して創造性の開発と人間性の涵養を目指すことを建学の精神として、社会に貢献する有用な人材を養成することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、改善・充実に努める。

2 前項の目的を達成するための点検の項目、実施体制等の細目は別に定める。

第2節 学部、学科及び学生定員

(学部及び学科)

第3条 本学に大学院及び学部並びに学科を置く。

学 部	学 科
芸術学部	造形学科 デザイン学科

2 大学院の規則については別に定める。

3 学部及び学科の学生定員は次の通りとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
芸術学部	造形学科	57名	5名	238名
	デザイン学科	123名	5名	502名
計		180名	10名	740名

第3節 学年、学期及び休業日

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第5条 学年を前期、後期の2学期制とし、期間は次の通りとする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次の通りとする。ただし、休業日でも授業を行うことがある。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 日曜日

- (3) 春期休業 3月21日から4月3日まで
 - (4) 夏期休業 7月22日から9月23日まで
 - (5) 冬期休業 12月21日から翌年1月10日まで
- 2 学長は、前項第3号から第5号までの休業日については、その期間を変更することができる。
- 3 学長は、特に認めた場合、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第4節 教職員組織

(教職員組織)

第7条 本学に次の教職員を置く。

- (1) 学長
 - (2) 教授、准教授、講師
 - (3) 事務職員及び技術職員
 - (4) その他必要な教職員
- 2 学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

第5節 教授会

第8条 本学に教授会を置く。

- 2 教授会の構成員は、次の各号の者とする。
- (1) 学長
 - (2) 教授
 - (3) 准教授
 - (4) 講師
 - (5) その他学長が必要と認める者
- 3 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり審議し、意見を述べるものとする。
- (1) 教員の教育研究業績等の審査に関する事項
 - (2) 教育課程の編成に関する事項
 - (3) 学生の入学、編入学及び卒業に関する事項
 - (4) 学位授与に関する事項
 - (5) 学生の賞罰に関する事項
 - (6) 本項第1号から第5号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要と学長が定める事項
- 4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じ意見を述べるることができる。

第2章 芸術学部 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第10条 在学期間は、8年を超えることができない。ただし、休学の期間は算入しない。又第16条及び第17条の規定により入学した者は、定められた在学すべき年数の2倍に相当する年限を超えて在学することはできない。

第2節 入学

(入学)

第11条 入学は、学年の始めとする。

(入学資格)

第12条 入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者又は同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定(昭和26年文部省令第13号)に合格した者
- (7) その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学志願等)

第13条 前条の規定により入学を志願する者は、入学願書に入学検定料及び別に指定する書類を添えて提出しなければならない。

- 2 前項の入学志願者については、別に定める入学者の選考を行う。

(入学手続)

第14条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書及び保証書(保護者又は保護者に準ずる者が極度額の範囲で保証責任を負う旨を承諾する書面)等を提出するとともに、所定の入学金、授業料等を納付しなければならない。

- 2 前項の期日については、別に定める。
- 3 学長は前項の入学手続きを完了した者(入学金免除の申請が受理された者も含む)に入学を許可する。

(外国人留学生)

第15条 日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、当該学部の教育研究に支障がない限り、特に選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の選考及び入学については、別に定める。

(再入学)

第16条 願いにより本学を退学した者又は第37条（3）による除籍者が、退学又は除籍後に再入学を希望するときは、教授会の議を経て学長が入学を許可する場合がある。

2 前項の規定により入学を許可された者が既に履修した授業科目、単位数の取扱い及び在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(編入学)

第17条 次の各号の一に該当する者で第3年次に編入学を志願する者がある時は、選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (4) その他法令により、大学への編入学が認められている者

2 前項の細則については、別に定める。

第18条 前条並びに第16条について入学を志願する者及び入学選考に合格した者は、第13条並びに第14条を準用する。

第3節 授業科目、履修方法及び単位

(授業科目)

第19条 授業科目の種類は、必修科目及び選択科目とする。授業科目の種類及び単位数は別表第1の通りとする。

2 学生が履修すべき単位は、124単位以上とする。

3 授業は、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行うものとする。

4 前項の授業は、多様な教育情報機器を高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。

(単位取得の認定)

第20条 授業科目を履修した者に対しては、試験等により単位を認定する。

(履修の方法)

第21条 本学において開設する授業科目の履修方法については、本学則に定めるものの他、別に定める。

(単位の計算方法)

第22条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成

し、以下の基準により計算する。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業について、講義、演習、実習又は実技の内、二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前項に規定する基準を考慮して単位数を定めるものとする。

3 第1項の規定に関わらず卒業研究等については、これらに必要な学修を考慮して単位数を定めることができる。

(教職関係科目)

第23条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による免許状を受けようとする者のために教職関係科目を置く。

2 前項の授業科目の種類及び単位数は、別表第1～第3の通りとする。

(学芸員資格に関する科目)

第24条 博物館法（昭和26年法律第285号）による学芸員の資格を得ようとする者のために、学芸員資格に関する科目を置く。

2 前項の授業科目の種類及び単位数は、別表第1の通りとする。

(履修登録)

第25条 学生は、各学期のはじめに当該学期において履修すべき授業科目を登録しなければならない。

2 学生は、前項により登録した授業科目以外の科目を履修、又単位を取得することはできない。

3 科目の履修登録は、各学期のはじめに公示する授業時間割による。

(試験の時期)

第26条 試験の時期は、各学期末及び学年末とする。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期に行うことができる。

(学修の評価)

第27条 試験等の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表示し、可以上を合格とする。

(他大学における単位修得の認定)

第28条 教育上有益と認めるときは、本学との協定による他大学又は短期大学において履修した授業科目について、教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の単位認定の取扱いについては、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第29条 入学前に次の各号において学修し、本学が教育研究上有益と認める科目については、既修得単位として認定することができる。

(1) 大学、短期大学並びに専門学校における学修

- (2) 高等専門学校の専攻科における学修
 - (3) 文部科学大臣が別に定める学修
 - (4) 外国の大学又は短期大学における学修
- 2 前項により認定することのできる単位数は編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものとあわせて60単位を超えないものとする。
- 3 第1項による既修得単位の認定の取扱いは、別に定める。
- 4 第1項に関わる第3年次編入学生の単位の認定については、別に定める。
- (大学又は短期大学以外の学修)

第30条 大学又は短期大学以外の教育施設等における学修について、教育上有益と認める場合は、その学修を本学において修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の取扱いについては、別に定める。
- 3 これにより与えることができる単位は、前2条の規程で定めた単位とあわせて60単位を超えないものとする。

第4節 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

(休学)

第31条 疾病その他やむを得ない事由により引き続き3ヶ月以上修学することができない場合は、保証人署名、捺印の上、その理由を詳記して、病気の場合は医師の診断書を添えて学長に休学を願い出、その許可を得なければならない。

- 2 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 3 第1項の取扱いについては、別に定める。

第32条 学長は前条にかかわらず、修学が不相当と認められる者に対し、休学を命じることができる。

(復学)

第33条 休学期間中にその事由が止んだときは、保証人署名、捺印の上、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第34条 他の大学に転学を希望する者は、保証人署名、捺印の上、学長に願い出、その許可を得なければならない。

(留学)

第35条 外国の大学又は短期大学に留学を希望する者は、学長に願い出、その許可を得なければならない。

(退学)

第36条 退学は以下のとおりに区別する。

- (1) 本人の意思による退学（自主退学）
- (2) 本人の意思に関わらない強制的な退学（懲戒退学）

2 自主退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人署名、捺印の上、学長に願出、その許可を得なければならない。懲戒退学の扱いについては第48条による。

(除籍)

第37条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 第10条に規定する在学年数を越えた者
- (2) 休学期間（4年）を超えてもなお修学できない者
- (3) 督促を受けてもなお授業料等を納入しない者
- (4) 死亡又は2年以上行方不明の者
- (5) 休学期間終了までに復学、休学延長、自主退学のいずれの手続きもとらない者
- (6) 正当な理由なく所定の手続きを怠り、修学意志がない者

2 前項（3）に関する規程（学費納付規程）は別に定める。

第5節 卒業及び学位

(卒業)

第38条 本学に4年以上在学し（第17条第1項により入学した者については同条第2項により定められた在学すべき年数）第19条の規定により定める単位を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 卒業要件のうち、第19条第4項に定める授業の方法により算入できる単位数は60単位を超えないものとする。

(学位授与)

第39条 前条により卒業した者に学士（芸術学）の学位を授与する。

2 学位の授与にあたっては、次の区分により専攻分野を付記する。

芸術学部 芸術学（造形学科 デザイン学科）

(卒業に必要な単位)

第40条 卒業に必要な単位等については履修規程に定める。

第6節 学生証

(学生証)

第41条 学生は、本学所定の学生証の交付を受け、常に携帯しなければならない。

第7節 入学検定料、入学金、授業料等

(入学金、授業料等)

第42条 学生は授業料その他所定の学費を納入しなければならない。

2 入学金は、第14条に定める指定期日までに納付しなければならない。

3 授業料等の金額、納付期日及び納付方法は、別に定める。

(入学金、授業料等の免除、徴収の猶予又は分納)

第43条 入学金、授業料等について特別の事情があると認めた場合は、入学金又は授業料の一部を免除又は徴収の猶予並びに分納を許可することがある。

2 前項の納付に関する取扱いは、別に定める。

(退学時等の場合の授業料)

第44条 退学又は転学、並びに除籍となった者は、当該学期の授業料等を全額納入しなければならない。

(休学の場合の授業料)

第45条 休学した者については、本学学費納付規程に定める在籍料を納めなければならない。

(入学検定料、入学金及び授業料等の不還付)

第46条 既納の入学検定料、入学金及び授業料等は、原則として返還しない。

第8節 賞罰

(表彰)

第47条 学生として表彰すべき行為のあったときは、学長は教授会の議を経てその者を表彰する。

(懲戒)

第48条 本学の学則に違反、又は学生の本分に反する行為があったときは、学長は教授会の議を経てその者を懲戒する。

2 前項の懲戒に関する規程は別に定める。

第3章 科目履修生、研究生及び単位互換履修生

(科目等履修生)

第49条 本学に入学する資格を有する者で、本学の授業について1科目又は数科目を選んで履修した者があるときは、本学の教育・研究に支障がない場合に限り教授会の議を経て学長が、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 前項に規定する履修生について、その学修の成果を評価して、所定の単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

(研究生)

第50条 本学に研究生を置くことができる。

2 前項の研究生に関する規程は、別に定める。

(単位互換履修生)

第51条 他の大学又は短期大学(外国の大学、短期大学を含む)との協定に基づき、教授会の議を経て学長が単位互換履修生として入学を許可することができる。

2 前項に規定する履修生について、その学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

3 単位互換履修生について必要な事項は、別に定める。

第4章 研究施設

(附属芸術センター)

第52条 本学に附属芸術センターを置く。

2 前項の運営に関する規程は、別に定める。

第5章 附属図書館

(附属図書館)

第53条 本学に附属図書館を置く。

2 前項の運営に関する規程は、別に定める。

第6章 学内共同教育研究施設

(附属博物館)

第54条 本学に附属博物館を置く。

2 前項の運営に関する規程は、別に定める。

(附属展示場)

第55条 本学に附属展示場をおく。

2 前項の運営に関する規程は、別に定める。

第7章 厚生施設

(福利厚生施設)

第56条 本学に福利厚生のための施設を置く。

2 前項の施設に関する必要な事項は、別に定める。

第8章 公開講座

(公開講座)

第57条 本学は公開講座を開設することがある。

2 前項に関する規程は、別に定める。

第9章 細則

(学生細則)

第58条 本学学生の守らなければならない細則は、別に定める。

(改廃)

第59条 この学則の改廃は、教授会の議を経て学長が決定し、理事会の議を経てこれを行う。

附 則

この学則は、平成13年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

(短期大学部学則との整合性を図るとともに、休学期間を明記)

附 則

この学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

- 学則第3条第2項の追加及び第3項の変更
- 入学資格の一部変更
- 別表第1 授業科目の種類及び単位数 (イ) 学部共通科目、(ロ) ②専門科目(観光デザイン学科)の一部変更

附 則

この学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

- 別表第1 授業科目の種類及び単位数 (イ) 学部共通科目、(ロ) ①専門科目(造形学科)、(ロ) ②専門科目(観光デザイン学科)の一部変更

附 則

1 この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

- メディアデザイン学科の設置に伴う定員変更、メディアデザイン学科教職関連科目の開設に伴う学則第23条別表第1、別表第2、別表第3の一部変更並びに教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の追加
- 学校教育法の一部改正に伴う第7条、第8条の一部改正
- メディアデザイン学科設置に伴う第39条の一部改正
- 学則第19条別表第1(授業科目の種類及び単位数)、(イ) 学部共通科目の一部改正、(ロ) ①専門科目(造形学科)、③専門科目(観光デザイン学科)の一部改正
- 学則第23条別表第1(教職に関する科目及び単位数)、別表第2(教科に関する科目及び単位数)、別表第3(教科又は教職に関する科目及び単位数) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の一部改正

2 学則第19条別表第1(ロ) ③、学則第23条の別表に係る改正については、平成19年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

- 学則第19条別表第1(授業科目の種類及び単位数)(イ) 学部共通科目の一部改正、(ロ) ③専門科目(観光デザイン学科)の一部改正

2 学則第19条別表第1(ロ) ③に係る改正については、平成19年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

- 学則第19条第3項並びに第4項、第22条第2項を追加、学則第19条別表第1(授業科目の種類及び単位数)(イ) 学部共通科目、(ロ) ③、学則第23条別表第2(教科に関する科目及び単位数)(メディアデザイン学科)、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の一部改正

2 学則第23条別表第2及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の改正については、平成21年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

- 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）（イ）学部共通科目の一部改正、（ロ）－③専門科目（観光デザイン学科）の一部改正
- 教育職員免許法施行規則の改正による学則第23条別表第1（教職に関する科目及び単位数）の一部改正

2 学則第23条別表第1の改正については、平成22年度入学生から適用する。

附 則

1 この学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

- デザイン学科設置に伴う学則第3条第1項・第3項の改正
- デザイン学科設置に伴う学則第39条第2項の改正
- 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）（イ）学部共通科目から（イ）－①造形学科一般教育科目への改正、（ロ）－①専門科目（造形学科）から（ロ）－①造形学科専門教育科目1・2への改正
- 学則第23条別表第1（教職に関する科目及び単位数）、別表第2（教科に関する科目及び単位数）、別表第3（教科又は教職に関する科目及び単位数）教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の一部改正
- 学則第24条別表第1（学芸員資格に関する授業科目の種類及び単位数）

2 旧学則第3条第1項・第3項並びに第39条第2項に定めるメディアデザイン学科及び観光デザイン学科については、在学生在が卒業するのを待って廃止する。なお、廃止するまでの間の教育条件の維持には万全を尽くすこととする。

（デザイン学科の設置に伴う変更による）

3 学則第23条の別表第1、第2、第3、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目及び学則第24条別表第1の改正については、平成23年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成23年12月 1日より施行する。

（学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）一部改正）

附 則

1 この学則は、平成24年 4月 1日より施行する。

- 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）一部改正
- 博物館法施行規則の改正に伴う学則第24条別表第1の一部改正

2 学則第24条別表第1に定める科目の改正については、平成24年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成25年10月 1日より施行する。

（学則第39条学位名称の改正）

附 則

1 この学則は、平成26年 4月 1日より施行する。

（学則第3条第3項芸術学部造形学科及びデザイン学科の定員変更）

2 学則第3条第3項の改正については、平成27年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成26年10月 1日より施行し、平成26年 4月 1日に遡って適用するものとする。

（組織改編に伴う第52条の改正）

附 則

この学則は、平成27年 4月 1日より施行する。

- 学校教育法及び学校教育法施行規則の改正に伴う条文の一部改正
- 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）一部改正
- 学則第23条別表第2（教科に関する科目及び単位数）一部改正

附 則

この学則は、平成28年 4月 1日より施行する。

- 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）一部改正
- 学則第23条別表第2（教科に関する科目及び単位数）一部改正
- メディアデザイン学科並びに観光デザイン学科の廃止

附 則

この学則は、平成29年 4月 1日より施行する。

（校名変更に伴う学則名称の改正）

附 則

1 この学則は、平成30年 4月 1日より施行する。

（学則第3条第3項芸術学部造形学科及びデザイン学科の定員変更）

2 学則第3条第3項の改正については、平成30年度入学生から適用する。

〔学則第31条の一部改正、第36条退学及び第37条除籍に関する項目の追加、第48条懲戒の条文変更による一部改正、学則第19条別表第1の一部改正〕

3 学則第31条、第36条、第37条、第48条、第19条別表第1の改正については平成30年 4月 1日時点に在籍の在籍学生より適用する。

附 則

1 この学則は、平成31年 4月 1日より施行する。

〔学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）の一部改正および、教職課程再課程認定による学則第23条教職関係科目別表第1、別表第2、別表第3の改正〕

2 学則第19条別表第1（授業科目の種類及び単位数）の改正については平成31年度入学生から適用し、学則第23条教職関係科目別表第1、別表第2、別表第3の改正については、平成31年度入学生（編入学生を含む）から適用する

附 則

この学則は、令和 2年 7月 7日より施行する。

（編入学資格見直しに伴う第17条の改正）

附 則

この学則は、令和 2年10月 1日より施行する。

（民法の改正に伴う極度額記載のため条文を一部改正）

附 則

この学則は、令和 2年12月23日より施行する。

〔学長が決定を行うにあたり、教授会で審議し意見を述べる事項の見直しによる第8条第3項の改正〕

附 則

この学則は、令和 3年 4月 1日より施行する。

(別表第 1 の一部改正)

附 則

この学則は、令和 4年 4月 1日より施行する。

〔 学則第19条別表第 1 (授業科目の種類及び単位数) の履修年次変更、学則第23条教職関係
科目別表第 1 (教育の基礎的理解に関する科目等及び単位数) の科目名称変更に伴う改正 〕

附 則

この学則は、令和 5年 4月 1日より施行する。

(学則第 1 9 条別表第 1 (授業科目の種類及び単位数) の一部改正)

附 則

1 この学則は、令和 7年 4月 1日より施行する。

(学則第 3 条第 3 項芸術学部造形学科およびデザイン学科の定員変更)

2 この学則第 3 条第 3 項の改正については、令和 7 年度入学生から適用する。

学則第19条別表第1 授業科目の種類及び単位数

(イ) -① 造形学科一般教育科目

学科等の名称	授 業 科 目			単 位 数		履修年次	備考
	科目区分	細目分野	名称	必修	選択		
芸術学部 造形学科	一般教育科目	導入	導入ゼミ		2	1年次	一般教育科目から 34単位以上必修 (言語と表現4単位、 情報1単位を含む)
		人間と表現	芸術学概論		2	1年次以上	
			コミュニケーション表現		2	1年次以上	
			人間論		2	1年次以上	
			宗教学		2	1年次以上	
			文芸論A		2	1年次以上	
			文芸論B		2	1年次以上	
			文章表現演習		2	1年次以上	
		現代社会と環境	生涯学習概論		2	2年次以上	
			法学(日本国憲法)		2	1年次以上	
			文化人類学		2	2年次以上	
			自然環境論		2	1年次以上	
			世界遺産論		2	1年次以上	
			観光文化論		2	1年次以上	
			サイエンス・リテラシー		2	1年次以上	
			ボランティア演習		2	1年次以上	
		からだところ	心理学A(社会・臨床心理)		2	1年次以上	
			心理学B(発達・青年心理)		2	1年次以上	
			生涯スポーツ演習		1	2年次以上	
			健康科学演習A		2	1年次以上	
			健康科学演習B		2	1年次以上	
			言語と表現	英語I		1	
		英語II			1	1年次以上	
英語III		1		2年次以上			
英語IV		1		2年次以上			
仏語IA-1		1		1年次以上			
仏語IA-2		1		1年次以上			
仏語IB-1		1		1年次以上			
仏語IB-2		1		1年次以上			
仏語II-1		1		2年次以上			
仏語II-2		1		2年次以上			
中国語I-1		1		1年次以上			
中国語I-2		1		1年次以上			
中国語II-1		1		2年次以上			
中国語II-2		1		2年次以上			
情報	情報処理演習I		1	1年次以上			
	情報処理演習II		1	1年次以上			
	画像基礎演習		1	1年次以上			
	画像応用演習		1	1年次以上			
	情報基礎論		2	1年次以上			

(イ) -① 造形学科一般教育科目

学科等の名称	授 業 科 目			単位数		履修年次	備考
	科目 区分	細目 分野	名称	必修	選択		
芸術学部 造形学科	一般教育科目	美術 研修	国内美術研修		1	1年次以上	一般教育科目から 34単位以上必修 (導入2単位、言語 と表現4単位、情報 1単位を含む)
			海外美術研修		1	1年次以上	
			海外美術実地研究		2	2年次以上	
		伝統 芸術	華道理論Ⅰ		2	1年次以上	
			華道理論Ⅱ		2	1年次以上	
			華道Ⅰ		2	1年次以上	
			華道Ⅱ		2	1年次以上	
			華道Ⅲ		2	2年次以上	
			華道Ⅳ		2	2年次以上	
			華道Ⅴ		2	3年次以上	
			華道Ⅵ		2	3年次以上	
			華道Ⅶ		2	4年次以上	
			華道Ⅷ		2	4年次以上	
			書道Ⅰ-1		1	1年次以上	
			書道Ⅰ-2		1	1年次以上	
			書道Ⅱ-1		1	2年次以上	
			書道Ⅱ-2		1	2年次以上	
		プロ グラム キャリア	コンピュータ基礎実習		1	1年次以上	
			キャリアデザイン演習A		1	2年次以上	
			キャリアデザイン演習B		1	3年次以上	
キャリア実践演習			2	3年次以上			
キャリア体験演習A			2	2年次以上			
キャリア体験演習B			2	3年次以上			

(イ) -② デザイン学科一般教育科目

学科等の名称	授 業 科 目			単 位 数		履修年次	備考
	科目 区分	細目 分野	名 称	必修	選択		
芸術学部 デザイン学科	一般教育科目	導入	導入ゼミ		2	1年次	一般教育科目 から34単位 以上必修 (言語と表現 4単位、情報1 単位を含む)
		人間と表現	芸術学概論		2	1年次以上	
			コミュニケーション表現		2	1年次以上	
			人間論		2	1年次以上	
			宗教学		2	1年次以上	
			文芸論A		2	1年次以上	
			文芸論B		2	1年次以上	
			文章表現演習		2	1年次以上	
		現代社会と環境	生涯学習概論		2	2年次以上	
			法学(日本国憲法)		2	1年次以上	
			文化人類学		2	2年次以上	
			自然環境論		2	1年次以上	
			世界遺産論		2	1年次以上	
			観光文化論		2	1年次以上	
			サイエンス・リテラシー ボランティア演習		2	1年次以上	
		からだといこころ	心理学A(社会・臨床心理学)		2	1年次以上	
			心理学B(発達・青年心理学)		2	1年次以上	
			生涯スポーツ演習		1	2年次以上	
			健康科学演習A		2	1年次以上	
			健康科学演習B		2	1年次以上	
言語と表現	英語I		1	1年次以上			
	英語II		1	1年次以上			
	英語III		1	2年次以上			
	英語IV		1	2年次以上			
	仏語I A-1		1	1年次以上			
	仏語I A-2		1	1年次以上			
	仏語I B-1		1	1年次以上			
	仏語I B-2		1	1年次以上			
	仏語II-1		1	2年次以上			
	仏語II-2		1	2年次以上			
	中国語I-1		1	1年次以上			
	中国語I-2		1	1年次以上			
	中国語II-1		1	2年次以上			
中国語II-2		1	2年次以上				
情報	情報処理演習I		1	1年次以上			
	情報処理演習II		1	1年次以上			
	画像基礎演習		1	1年次以上			
	画像応用演習		1	1年次以上			
	情報基礎論		2	1年次以上			

(イ) -② デザイン学科一般教育科目

学科等の名称	授 業 科 目			単位数		履修年次	備考
	科目区分	細目分野	名称	必修	選択		
芸術学部 デザイン学科	一般教育科目	美術研修	国内美術研修		1	1年次以上	一般教育科目から 34単位以上必修 (導入2単位、言語 と表現4単位、情報 1単位を含む)
			海外美術研修		1	1年次以上	
			海外美術実地研究		2	2年次以上	
		伝統芸術	華道理論Ⅰ		2	1年次以上	
			華道理論Ⅱ		2	1年次以上	
			華道Ⅰ		2	1年次以上	
			華道Ⅱ		2	1年次以上	
			華道Ⅲ		2	2年次以上	
			華道Ⅳ		2	2年次以上	
			華道Ⅴ		2	3年次以上	
			華道Ⅵ		2	3年次以上	
			華道Ⅶ		2	4年次以上	
			華道Ⅷ		2	4年次以上	
			書道Ⅰ-1		1	1年次以上	
			書道Ⅰ-2		1	1年次以上	
			書道Ⅱ-1		1	2年次以上	
			書道Ⅱ-2		1	2年次以上	
		キャリア プログラム	コンピュータ基礎実習		1	1年次以上	
			キャリアデザイン演習A		1	2年次以上	
			キャリアデザイン演習B		1	3年次以上	
			キャリア実践演習		2	3年次以上	
キャリア体験演習A			2	2年次以上			
キャリア体験演習B			2	3年次以上			

(ロ) - ① 造形学科専門教育科目 1

学科等の名称	授業科目			単位数		履修年次	備考		
	科目区分	細目分野	名称	必修	選択				
芸術学部 造形学科		芸術の世界	日本美術史		2	1年次以上			
			東洋美術史		2	1年次以上			
			西洋美術史		2	1年次以上			
			西洋近代美術史		2	1年次以上			
			現代美術論		2	1年次以上			
			日本建築文化史		2	1年次以上			
			西洋建築文化史		2	1年次以上			
			工芸概論		2	1年次以上			
			映像芸術論		2	1年次以上			
			映像文化史		2	1年次以上			
			専門教育科目 1	芸術と社会	デザイン史			2	1年次以上
					デザイン概論			2	1年次以上
					芸術論講読			2	1年次以上
					メディアデザイン概論			2	1年次以上
					メディア工学			2	2年次以上
	感性科学概論				2	2年次以上			
	ユニバーサルデザイン論				2	1年次以上			
	観光デザイン概論				2	1年次以上			
	シナリオ制作論				2	1年次以上			
	芸術心理学				2	2年次以上			
	芸術と思想				2	1年次以上			
	芸術と科学				2	1年次以上			
	芸術思考法演習				2	3年次以上			
	現代社会と芸術				2	1年次以上			
	アートマネジメント論				2	1年次以上			
	アートマネジメント演習		2	2年次以上					
	知的財産論		2	2年次以上					
	保存科学概論		2	1年次以上					
	京都プロジェクト関連科目		京都デザイン論		2	1年次以上			
			京都文化論		2	1年次以上			
仏教文化論				2	1年次以上				
芸能文化史				2	1年次以上				
京都プロジェクトA				2	2年次以上				
京都プロジェクトB				2	2年次以上				
京都プロジェクトC				2	2年次以上				

専門教育科目 1 から
20単位以上必修
(内京都プロジェクト関連
科目から2単位以上必
修)

(ロ) ー① 造形学科専門教育科目2 専門必修科目

学科等の名称	授 業 科 目			単位数		履修年次	備考
	科目 区分	細目 区分	名称	必修	選択		
芸術学部 造形学科	専門 教育 科目 2	専門 必修 科目	芸術の力実習	4		1年次	48単位必修
			領域基礎演習Ⅰ	2		1年次	
			造形専門実習	4		1年次	
			領域基礎演習Ⅱ	2		1年次	
			造形専門演習Ⅰ	6		2年次	
			造形専門演習Ⅱ	6		2年次	
			造形専門演習Ⅲ	6		3年次	
			造形専門演習Ⅳ	6		3年次	
			卒業制作Ⅰ	6		4年次	
			卒業制作Ⅱ	6		4年次	

(ロ) -① 造形学科専門教育科目2 選択科目

学科等の名称	授業科目			単位数		履修年次	備考
	科目区分	細目区分	名称	必修	選択		
芸術学部 造形学科	専門教育科目2	造形学科 選択科目	東洋・日本美術研究A		2	2年次以上	14単位以上必修 (うち造形学科選択科目から6単位以上、選択演習科目から2単位以上必修)
			東洋・日本美術研究B		2	2年次以上	
			東洋・日本美術理論演習		2	3年次以上	
			西洋美術研究A		2	2年次以上	
			西洋美術研究B		2	2年次以上	
			西洋美術理論演習		2	3年次以上	
			アーティストブック研究		2	3年次以上	
			先端芸術・メディアアート研究		2	2年次以上	
			現代芸術研究A		2	2年次以上	
			現代芸術研究B		2	2年次以上	
			現代芸術理論演習		2	3年次以上	
			近代芸術研究		2	2年次以上	
			現代作家論A (絵画・版画・写真)		2	2年次以上	
			現代作家論B (彫刻・工芸・インスタレーション)		2	2年次以上	
			選択演習科目	オープン演習A		2	
		オープン演習B			2	2年次以上	
		オープン演習C			2	2年次以上	
		オープン演習D			2	2年次以上	
		オープン演習E			2	2年次以上	
		オープン演習F			2	2年次以上	
		オープン演習G			2	2年次以上	
		オープン演習H			2	2年次以上	
		オープン演習I			2	2年次以上	
		オープン演習J			2	2年次以上	
		オープン演習K			2	2年次以上	
		オープン演習L			2	2年次以上	
		オープン演習M			2	2年次以上	
		オープン演習N			2	2年次以上	
		オープン演習O			2	2年次以上	
		オープン演習P			2	2年次以上	
		オープン演習Q			2	2年次以上	
		オープン演習R			2	2年次以上	
		オープン演習S		2	2年次以上		
オープン演習T		2	2年次以上				
オープン演習U		2	2年次以上				
オープン演習V		2	2年次以上				
オープン演習W		2	2年次以上				
オープン演習X		2	2年次以上				
オープン演習Y		2	2年次以上				
オープン演習Z		2	2年次以上				

(ロ) ー② デザイン学科専門教育科目 1

学科等の名称	授業科目			単位数		履修年次	備考
	科目区分	細目分野	名称	必修	選択		
芸術学部 デザイン学科	専門教育科目 1	芸術の世界	日本美術史		2	1年次以上	専門教育科目 1 から 20単位以上必修 (内京都プロジェクト外関連 科目から2単位以上必修)
			東洋美術史		2	1年次以上	
			西洋美術史		2	1年次以上	
			西洋近代美術史		2	1年次以上	
			現代美術論		2	1年次以上	
			日本建築文化史		2	1年次以上	
			西洋建築文化史		2	1年次以上	
			工芸概論		2	1年次以上	
			映像芸術論		2	1年次以上	
			映像文化史		2	1年次以上	
		芸術と社会	デザイン史		2	1年次以上	
			デザイン概論		2	1年次以上	
			芸術論講読		2	1年次以上	
			メディアデザイン概論		2	1年次以上	
			メディア工学		2	2年次以上	
	感性科学概論			2	2年次以上		
	ユニバーサルデザイン論			2	1年次以上		
	観光デザイン概論			2	1年次以上		
	シナリオ制作論			2	1年次以上		
	芸術心理学			2	2年次以上		
	芸術と思想			2	1年次以上		
	芸術と科学			2	1年次以上		
	芸術思考法演習			2	3年次以上		
	現代社会と芸術			2	1年次以上		
	アートマネジメント論			2	1年次以上		
	アートマネジメント演習		2	2年次以上			
	知的財産論		2	2年次以上			
	保存科学概論		2	1年次以上			
	京都プロジェクト関連科目	京都デザイン論		2	1年次以上		
		京都文化論		2	1年次以上		
仏教文化論			2	1年次以上			
芸能文化史			2	1年次以上			
京都プロジェクトA			2	2年次以上			
京都プロジェクトB			2	2年次以上			
京都プロジェクトC			2	2年次以上			

(ロ) ー② デザイン学科専門教育科目2 専門必修科目

学科等の名称	授 業 科 目			単位数		履修年次	備考
	科目 区分	細目 区分	名称	必修	選択		
芸術学部 デザイン学科	専門 教育科目2	専門 必修科目	芸術の力実習	4		1年次	48単位必修
			領域基礎演習Ⅰ	2		1年次	
			デザイン専門実習	4		1年次	
			領域基礎演習Ⅱ	2		1年次	
			デザイン専門演習Ⅰ	6		2年次	
			デザイン専門演習Ⅱ	6		2年次	
			デザイン専門演習Ⅲ	6		3年次	
			デザイン専門演習Ⅳ	6		3年次	
			卒業制作(研究)Ⅰ	6		4年次	
			卒業制作(研究)Ⅱ	6		4年次	

(ロ) ー② デザイン学科専門教育科目2 選択科目

学科等の名称	授 業 科 目			単 位 数		履修年次	備考
	科目 区分	細目 区分	名 称	必修	選択		
芸術学部 デザイン学科	デザイン 学科 選 択 科 目		プロダクトデザイン論		2	2年次以上	
			インテリアデザイン論		2	2年次以上	
ビジュアルデザイン論				2	2年次以上		
広告論				2	2年次以上		
商品企画論				2	2年次以上		
色彩計画論				2	2年次以上		
メディア技術史				2	2年次以上		
アニメーション論				2	2年次以上		
インターフェイス論				2	2年次以上		
キャラクターデザイン論				2	2年次以上		
ゲームデザイン演習				2	2年次以上		
I C T演習				2	2年次以上		
メディアプロデュース				2	2年次以上		
工芸研究 (エスニック)				2	2年次以上		
テキスタイルデザイン論				2	2年次以上		
ファッションデザイン論				2	2年次以上		
			専 門 教 育 科 目 2		オープン演習A		
オープン演習B		2			2年次以上		
オープン演習C		2			2年次以上		
オープン演習D		2			2年次以上		
オープン演習E		2			2年次以上		
オープン演習F		2			2年次以上		
オープン演習G		2			2年次以上		
オープン演習H		2			2年次以上		
オープン演習I		2			2年次以上		
オープン演習J		2			2年次以上		
オープン演習K		2			2年次以上		
オープン演習L		2			2年次以上		
オープン演習M		2			2年次以上		
オープン演習N		2			2年次以上		
オープン演習O		2			2年次以上		
オープン演習P		2			2年次以上		
オープン演習Q		2			2年次以上		
オープン演習R		2			2年次以上		
オープン演習S		2			2年次以上		
オープン演習T		2			2年次以上		
オープン演習U		2	2年次以上				
オープン演習V		2	2年次以上				
オープン演習W		2	2年次以上				
オープン演習X		2	2年次以上				
オープン演習Y		2	2年次以上				
オープン演習Z		2	2年次以上				

学則第23条 教職関係科目 別表第1

教育の基礎的理解に関する科目等及び単位数

学科等の名称	教育職員免許法 施行規則の科目区分	授業科目	単 位 数	履修年次	備考
芸術学部 造形学科 デザイン学科	教職の基礎的理解に関する 科目	教育原理	2	1, 2年次	
		教職論	2	1, 2年次	
		教育経営学	2	1年次以上	
		教育心理学	2	1, 2年次	
		特別支援教育論	2	2年次以上	
		教育課程論	2	2年次以上	
	道徳、総合的な学習の時間等 の指導法及び生徒指導、教育 相談等に関する科目	道徳教育論	2	2年次以上	中一種免のみ
		特別活動及び総合的な学 習の時間の指導法	2	2年次以上	
		教育の方法及び技術（情 報通信技術の活用含む）	2	2年次以上	
		生徒指導及び進路指導法	2	2年次以上	
		教育相談論（カウンセリ ングを含む）	2	2年次以上	
	教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	2	4年次	中一種免必修
		教育実習Ⅱ	2	4年次	
		教育実習事前事後指導	1	4年次	
		教職実践演習（中・高）	2	4年次	
	計		29	中一種免29単位必修 高一種免25単位必修	

学則第23条 教職関係科目 別表第2

教科及び教科の指導法に関する科目及び単位数（造形学科）

学科等の名称	教育職員免許法施行規則の科目区分	授業科目	単位数		履修年次	備考		
			必修	選択				
芸術学部 造形学科	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	芸術の力実習	4		1年次以上	必修 映像メディア表現を含む。	
			現代作家論A（絵画・版画写真）		2	2年次以上		
		彫刻	オープン演習B 現代作家論B（彫刻・工芸・インスタレーション）	2		2年次以上 2年次以上	必修	
					2			
		デザイン（映像メディア表現を含む。）	オープン演習C デザイン概論	2		2年次以上 1年次以上	必修 映像メディア表現を含む。	
				2				
		工芸	オープン演習D オープン演習E 工芸概論			2 2 2	2年次以上 2年次以上 1年次以上	中一種免（美術）のみいずれか選択必修
		美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	日本美術史		2		1年次以上	必修 鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。 必修 鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。 必修 鑑賞を含む。
			東洋美術史		2		1年次以上	
	西洋美術史			2		1年次以上		
	西洋近代美術史 現代社会と芸術 現代美術論			2 2 2		1年次以上 1年次以上 1年次以上		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	美術科教育法Ⅰ		2		2年次		
		美術科教育法Ⅱ		2		2年次		
		美術科教育法Ⅲ		2		3年次		
		美術科教育法Ⅳ		2		3年次		
		計		22	18	28単位以上必修		

教科及び教科の指導法に関する科目及び単位数（デザイン学科）

学科等の名称	教育職員免許法施行規則の科目区分	授業科目	単位数		履修年次	備考	
			必修	選択			
芸術学部 デザイン学科	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	芸術の力実習	4		1年次以上	必修 映像メディア表現を含む。
			オープン演習A	2		2年次以上	必修 映像メディア表現を含む。
			現代作家論A（絵画・版画・写真）		2	2年次以上	
		彫刻	オープン演習B 現代作家論B（彫刻・工芸・インスタレーション）	2	2	2年次以上 2年次以上	必修
		デザイン（映像メディア表現を含む。）	デザイン専門実習	4		1年次	必修 映像メディア表現を含む。
		工芸	オープン演習D		2	2年次以上	中一種免（美術）のみいずれか選択必修
			オープン演習E		2	2年次以上	
			工芸概論		2	1年次以上	
		美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	日本美術史	2		1年次以上	必修 鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。
			東洋美術史	2		1年次以上	必修 鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。
			西洋美術史	2		1年次以上	必修 鑑賞を含む。
			西洋近代美術史 現代社会と芸術 現代美術論		2 2 2	1年次以上 1年次以上 1年次以上	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	美術科教育法Ⅰ	2		2年次		
		美術科教育法Ⅱ	2		2年次		
		美術科教育法Ⅲ	2		3年次		
		美術科教育法Ⅳ	2		3年次		
		計		26	16	28単位以上必修	

学則第23条 教職関係科目 別表第3

大学が独自に設定する科目及び単位数

学科等の名称	教育職員免許法 施行規則の科目名	授業科目	単 位 数	履修年次	備考
芸術学部 造形学科 デザイン学科	教科又は教職に関する科目	道徳教育論 生涯学習概論	2	2年次以上	高一種免のみ
			2	2年次以上	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学科等の 名 称	免許法施行規則に定め る科目		授 業 科 目	単 位 数	履修年次	備 考
	科 目	単 位 数				
造形学科	日本国憲法	2	法学（日本国憲法）	2	1年次以上	
	体 育	2	健康科学演習A	2	1年次以上	1科目選択必修
			健康科学演習B	2	1年次以上	
	外国語コミュニケーション	2	英 語 I	1	1年次以上	
英 語 II			1	1年次以上		
情報機器の操作	2	情報処理演習 I	1	1年次以上		
		情報処理演習 II	1	1年次以上		
デザイン学科	日本国憲法	2	法学（日本国憲法）	2	1年次以上	
	体 育	2	健康科学演習A	2	1年次以上	1科目選択必修
			健康科学演習B	2	1年次以上	
	外国語コミュニケーション	2	英 語 I	1	1年次以上	
英 語 II			1	1年次以上		
情報機器の操作	2	情報処理演習 I	1	1年次以上		
		情報処理演習 II	1	1年次以上		

学則第24条別表第1 学芸員資格に関する授業科目の種類及び単位数

科目区分	授 業 科 目	単位数		履修年次	備 考
		必 修	選 択		
省令科目	生涯学習概論	2		2年次以上	
	博物館概論	2		2年次以上	
	博物館経営論	2		3年次以上	
	博物館資料論	2		2年次以上	
	博物館資料保存論	2		3年次以上	
	博物館展示論	2		2年次以上	
	博物館教育論	2		3年次以上	
	博物館情報・メディア論	2		2年次以上	
	博物館実習	3		3年次以上	
関連科目	仏教文化論		2	1年次以上	10単位以上必修
	京都文化論		2	1年次以上	
	日本建築文化史		2	1年次以上	
	西洋建築文化史		2	1年次以上	
	日本美術史		2	1年次以上	
	西洋美術史		2	1年次以上	
	東洋美術史		2	1年次以上	
	芸能文化史		2	2年次以上	
	文化人類学		2	1年次以上	

嗟峨美術大学芸術学部の学則の一部変更について

1. 変更の事由

令和7年4月より、近年の入学者状況を勘案し、学則第3条第3号に定める芸術学部の入学定員を増員することとした。

(1) 学則第3条第3項

○定員数の変更

造形学科入学定員を57名、デザイン学科入学定員を123名とし、
芸術学部入学定員合計を180名とする。

造形学科収容定員を238名、デザイン学科収容定員を502名とし、
芸術学部の収容定員合計を740名とする。

(2) 附則

○附則の追加

上記、学則第3条第3項の定員変更に係る附則を追加した。

2. 変更の時期 令和7年4月1日

嵯峨美術大学芸術学部 学則の一部改正について

1 改正理由

近年の入学者状況等を勘案し、令和7年4月より学則第3条第3項に定める芸術学部造形学科およびデザイン学科の入学定員を増員することとした。

2 新旧対照表

現行					改正案																																																						
第1条～第2条 (省略)					第1条～第2条 (省略)																																																						
<p>第2節 学部、学科および学生定員 (学部および学科)</p> <p>第3条 本学に大学院および学部並びに学科を置く。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 部</th> <th colspan="2">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術学部</td> <td>造形学科</td> <td>デザイン学科</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 大学院の規則については別に定める。</p> <p>3 学部および学科の学生定員は次の通りとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 部</th> <th>学 科</th> <th>入 学 定 員</th> <th>編 入 学 定 員</th> <th>収 容 定 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">芸術学 部</td> <td>造形学科</td> <td><u>45</u> 名</td> <td>5名</td> <td><u>190</u> 名</td> </tr> <tr> <td>デザイン学 科</td> <td><u>90</u> 名</td> <td>5名</td> <td><u>370</u> 名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td><u>135</u> 名</td> <td>10名</td> <td><u>560</u> 名</td> </tr> </tbody> </table>					学 部	学 科		芸術学部	造形学科	デザイン学科	学 部	学 科	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	芸術学 部	造形学科	<u>45</u> 名	5名	<u>190</u> 名	デザイン学 科	<u>90</u> 名	5名	<u>370</u> 名	計		<u>135</u> 名	10名	<u>560</u> 名	<p>第2節 学部、学科および学生定員 (学部および学科)</p> <p>第3条 本学に大学院および学部並びに学科を置く。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 部</th> <th colspan="2">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術学部</td> <td>造形学科</td> <td>デザイン学科</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 大学院の規則については別に定める。</p> <p>3 学部および学科の学生定員は次の通りとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 部</th> <th>学 科</th> <th>入 学 定 員</th> <th>編 入 学 定 員</th> <th>収 容 定 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">芸術学 部</td> <td>造形学科</td> <td><u>57</u> 名</td> <td>5名</td> <td><u>238</u> 名</td> </tr> <tr> <td>デザイン学 科</td> <td><u>123</u> 名</td> <td>5名</td> <td><u>502</u> 名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td><u>180</u> 名</td> <td>10名</td> <td><u>740</u> 名</td> </tr> </tbody> </table>					学 部	学 科		芸術学部	造形学科	デザイン学科	学 部	学 科	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	芸術学 部	造形学科	<u>57</u> 名	5名	<u>238</u> 名	デザイン学 科	<u>123</u> 名	5名	<u>502</u> 名	計		<u>180</u> 名	10名	<u>740</u> 名
学 部	学 科																																																										
芸術学部	造形学科	デザイン学科																																																									
学 部	学 科	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員																																																							
芸術学 部	造形学科	<u>45</u> 名	5名	<u>190</u> 名																																																							
	デザイン学 科	<u>90</u> 名	5名	<u>370</u> 名																																																							
計		<u>135</u> 名	10名	<u>560</u> 名																																																							
学 部	学 科																																																										
芸術学部	造形学科	デザイン学科																																																									
学 部	学 科	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員																																																							
芸術学 部	造形学科	<u>57</u> 名	5名	<u>238</u> 名																																																							
	デザイン学 科	<u>123</u> 名	5名	<u>502</u> 名																																																							
計		<u>180</u> 名	10名	<u>740</u> 名																																																							
第4条～第59条 (省略)					第4条～第59条 (省略)																																																						
学則第19条別表第1～学則第24条別表第1 (省略)					学則第19条別表第1～学則第24条別表第1 (省略)																																																						

<p>(附則追加)</p>	<p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p><u>1 この学則は、令和7年 4月1日より施行する。</u></p> <p style="text-align: center;">●<u>学則第3条第3項芸術学部造形学科およびデザイン学科の定員変更</u></p> <p><u>2 この学則第3条第3項の改正については、令和7年度入学生から適用する。</u></p>
---------------	---

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. 学則変更（収容定員変更）の内容 | P. 2 |
| 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性 | P. 2 |
| 3. 学則変更に伴う教育課程等の変更内容 | P. 4 |
| (1) 教育課程の変更内容について | P. 4 |
| (2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について | P. 4 |
| (3) 教育組織の変更内容について | P. 5 |
| (4) 大学全体の施設・設備の変更内容について | P. 5 |

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7年4月より、嵯峨美術大学芸術学部造形学科の入学定員を45名から57名に、嵯峨美術大学芸術学部デザイン学科の入学定員を90名から123名に増員し、大学全体の入学定員を135名から180名、収容定員を560名から740名に増員する。

※下線部が変更箇所

学部・学科	現 行			変 更 後		
	入学定員	3 年次編 入学定員	収容定員	入学定員	3 年次編 入学定員	収容定員
芸術学部 造形学科	45 人	5 人	190 人	<u>57 人</u>	5 人	<u>238 人</u>
芸術学部 デザイン学科	90 人	5 人	370 人	<u>123 人</u>	5 人	<u>502 人</u>
大学全体 計	135 人	10 人	560 人	<u>180 人</u>	10 人	<u>740 人</u>

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

嵯峨美術大学は、1 学部 2 学科を設置する単科大学で、平成 13 年度に京都嵯峨芸術大学として開学し、広義の芸術教育を通じて、個人の特性を生かしながら、創造性溢れる文化を生成し、より豊かな社会を実現できる人材を育成することで着実に発展してきたが、18 歳人口の減少による影響等により入学者数が著しく低下、やむを得ず平成 27 年 4 月に芸術学部造形学科の入学定員を 85 名から 40 名、デザイン学科の入学定員を 95 名から 80 名、大学全体の入学定員を 180 名から 120 名、併せて 3 年次編入学定員を減員し、大学全体の収容定員を 778 名から 500 名に減員した。

この減員を契機に教職員全体に強い危機感が生じ、平成 29 年度より嵯峨美術大学に校名を変更、大学改革を推進し、学生募集活動に注力した結果、志願者及び入学者が増加したため、平成 30 年 4 月より、芸術学部造形学科の入学定員を 40 名から 45 名、デザイン学科の入学定員を 80 名から 90 名、大学全体の入学定員を 120 名から 135 名に収容定員を増員した。以降も、後述の通り志願者数が高止まりしており、現状の収容定員数での調整が難しくなっている。加えて、外国人留学生の志願者も増加傾向にあり、多様な人材の受入れを計画しているが、現状規模では若干名しか受け入れる余地がない。本学への進学ニーズの高まりに対応するため、収容定員増を申請し、多様な人材を受け入れ、より一層の教育・研究の充実を図り、本学の特徴である、芸術文化の振興に寄与し社会貢献を果たす表現者、デザイナーを一人でも多く育成していきたいと考える。なお、過去 5 年間の学科別の学生募集状況は、以下の通りである。

(1) 造形学科

造形学科では、「日本画・古画」「油画・版画」「複合」の 3 領域を開設している。特に本学の特色的な分野である、「日本画・古画」領域においては、文化財の保存・修復

に係る産学連携や科学研究費助成事業の獲得等大きな成果を挙げている。なお、文化庁移転に伴い、京都に「国立文化財修理センター」を整備する方針が発表されており、今後、より人材需要が高まると考えられる。なお、造形学科の学生募集状況は、以下の通りである。

造形学科の過去5年間の学生募集状況

	入学定員 (a)	志願者数 (b)	受験者数 (c)	合格者数 (d)	入学者数 (e)	入学定員 超過率	倍率 (c/e)
令和元年度	45	219	216	79	54	1.20	2.73
令和2年度	45	281	280	86	57	1.27	3.25
令和3年度	45	293	286	89	54	1.20	3.21
令和4年度	45	412	404	96	63	1.40	4.20
令和5年度	45	330	315	98	48	1.07	3.21

過去5年間の入試倍率（受験者数/合格者数）の平均値は3.32倍、入学定員超過率は122%となっている。令和2年度に志願者数が急増し、以降安定して志願者及び入学者を確保できている。過去5年間の入学者数の平均が55名となっており、入学者数に見合った収容定員とするため、定員増の申請を行うものである。

(2) デザイン学科

デザイン学科では、「グラフィックデザイン」「イラストレーション」「キャラクターデザイン」「観光デザイン」「生活プロダクト」「染織・テキスタイル」の6領域を開設している。経済産業省では、マンガ・アニメ・映像等のコンテンツ、ファッション、デザイン、観光サービスなどを中心に海外で人気の高いコンテンツを国内外に発信し、海外展開を促進しており、日本の経済成長を支える分野として、更なる発展が期待されている。デザイン学科では、既に産学連携等を通して、コンテンツ産業に貢献してきているが、今後これらの社会的ニーズは益々高まるとともに、人材育成が重要と考えられる。

デザイン学科の過去5年間の学生募集状況

	入学定員 (a)	志願者数 (b)	受験者数 (c)	合格者数 (d)	入学者数 (e)	入学定員 超過率	倍率 (c/e)
令和元年度	90	408	400	130	115	1.28	3.07
令和2年度	90	644	628	141	111	1.23	4.45
令和3年度	90	540	521	147	109	1.21	3.54
令和4年度	90	569	547	130	99	1.10	4.20
令和5年度	90	558	528	117	94	1.04	4.51

過去5年間の入試倍率（受験者数/合格者数）の平均値は3.95倍、入学定員超過率は117%となっており、過去5年間安定して志願者を確保できている。過去5年間の入学者数の平均は105名となっている。ここ2年の入学者が減少しているのは、入学定員超過率の改善のため、合格者数を調整したためである。進学ニーズに応え、社会貢献を果たす表現者、デザイナーを一人でも多く育成するため、収容定員増の申請を行うものである。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容について

今回の収容定員増加に伴う教育課程の教育課程に変更はなく、教育の質保証は担保されている。芸術学部の教育課程では、カリキュラム全体が「一般教育科目」、「専門教育科目1」、「専門教育科目2」（学科別選択科目、学科別必修科目）の3科目区分に大別されている。そのうち「一般教育科目」と「専門教育科目1」は造形学科およびデザイン学科所属学生がともに履修する「芸術学部共通カリキュラム」となっている。「一般教育科目」では、自然や人間社会一般への視野を広げ、「専門教育科目1」においては、芸術全般に関する知識、理解を深めている。「専門教育科目2」（学科別選択科目）は、創作活動に直接的に関わる知識・理論・技能を教授する選択科目と、専門分野の制作体験を横断的に学ぶ選択演習科目によって構成されている。「専門教育科目2」（学科別必修科目）は、造形学科3領域、デザイン学科6領域に分かれ、それぞれの領域に備えられた実習室にて授業を実施している。なお、毎年IR活動を通じて教育活動を可視化しており、数値を経年的に分析し、教育活動の更なる充実を図っていく。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

今回の収容定員の増加に伴う教育方法及び履修指導方法の変更は特にないが、本学の特徴は以下の通りである。

① 教育方法の工夫

ア. 「一般教育科目」では、幅広い視野と豊かな人間性の涵養を目的とし、人文、社会、自然科学、情報科学等に属する諸学をバランスよく習得すると同時に、伝統芸術関連科目、キャリアプログラムを通して学生の修学意識の向上と社会意識を推進するカリキュラムが設定されている。中でも1年次前期に芸術学部生が全員履修する初年次導入教育科目の「導入ゼミ」では、建学の理念に関する研修や、レポート制作、ディスカッション、プレゼンテーション等、本学で学ぶ意義や、大学での学習生活に必要な基本能力の向上を図っている。

イ. 「専門教育科目1」では芸術分野の専門知識の学修と京都に立地する条件を活かした地域連携などの社会における芸術の貢献を実体験するために、「芸術の世界」、「芸術と社会」、「京都プロジェクト関連科目」を設け、社会文化を含めた、学際的かつ実践的な視野で広義の芸術文化理解を含める科目編成となっている。

ウ. 「専門教育科目2」（学科別必修科目）では、1年次に両学科ともに領域横断的に基礎的な技能を習得するとともに、作品制作やデザインワークに必要な思考力・構想力を向

上させるカリキュラムが組まれている。また、グループワークによる作品制作及び行政との連携による制作課題の取り組みなど、地域における社会連携事業に学生が主体的に参画するプログラムを設定している。

②履修指導方法の工夫

ア. 新入生履修ガイダンス

初年次前期授業開始前に事務局（教務グループ）による履修ガイダンスが全初年次学生を対象に実施されている。こうした事務局主導の学修支援に加えて、初年次履修必修科目の「導入ゼミ」担当教員や専攻領域の実習教員からも履修指導を行っており、スムーズに大学生活に馴染めるよう工夫している。

イ. 専攻領域担当教員の個別指導

各専攻領域においては、担当教員は選択すべき科目を推奨し、学生に周知している。また、授業時間外において学生からの様々な相談に応じており、履修プランを構築する際のサポートに当たっている。

(3) 教員組織の変更内容について

今回の収容定員増加による教員組織の変更は行わない。本学は1学部2学科を設置する単科大学で、現在の学部全体の教員組織は、教授19名、准教授4名、専任講師7名の計30名である。令和5年5月1日の在籍者数661名（留年者含む）でS/T比を算出すると、専任1教員あたり22名となっている。完成年度には、基幹教員数を33名とする計画であり、収容定員変更に伴う大学全体のS/T比は22名と現在と同水準で、充分に同等の教育・研究を維持できると考えられる。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容について

大学全体の施設・設備の変更は予定していない。今回の収容定員変更により、芸術学部全体の収容定員数560名から740名になるが、本学の施設・設備は、平成26年度までの造形学科入学定員85名、編入学定員16名、デザイン学科入学定員95名、編入学定員13名、大学全体の入学定員180名、収容定員778名に対応した施設であり、収容定員増に対応できると考える。

本学は、併設する嵯峨美術短期大学（収容定員300名）とキャンパスを共有しており、共有する校地面積は26,169㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率（71%）をかけた18,318㎡が本学の校地面積となる。大学設置基準上必要とされる完成年度の校地面積は7,400㎡となっている。また大学設置基準上必要とされる校舎面積は7,462㎡となっており、共有する校舎面積は合計28,476㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率（71%）をかけた20,217㎡が本学の校舎面積となる。

平成26年度までの本学の教育課程は、造形学科（収容定員372名）は6領域（日本画、油画、版画、彫刻、工芸、メディアアート）、デザイン学科（収容定員406名）は7領域（グラフィックデザイン、イラストレーション、映像アニメーション、ウェブデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、観光デザイン）に区分されていた。主

として大学全体が利用する校舎面積に変更はない。以後、領域の統廃合及び、新領域の開設を行い、現行は造形学科 3 領域（日本画・古画、油画・版画、複合）と、デザイン学科 6 領域（グラフィックデザイン、イラストレーション、キャラクターデザイン、観光デザイン、生活プロダクト、染織・テキスタイル）の教育課程としている。造形学科 6 領域の学びを 3 領域に、デザイン学科 7 領域の学びを 6 領域に再編することによって、領域ごとに細分化されていたスペースを見直し再配分するとともに、重複する機材の統廃合や機器の更新を行いながら省スペース化を推進してきたことにより、効率的なスペース使用が可能となっている。今回の収容定員増加後も現行の造形学科 3 領域、デザイン学科 6 領域の学びを継続するための必要な施設・設備を有しているのに加え、近年、教育機器のデジタル化が急速に進展したことで、特にデザイン学科学生の実作環境の省スペース化が進んでおり、デジタル化への対応のため、実習室、講義室等の全教室への無線 LAN の配備、全学生への Adobe 社のソフトウェア最新版及び Microsoft 社の Office ソフトウェア最新版の無償提供、プロジェクターの増設や更新等を進めている。主として大学全体で使用する実習室は、造形学科総面積約 3,600 m²、デザイン学科総面積約 3,880 m²、合計で総面積約 7,480 m²となり、大学設置基準に必要な校舎面積 7,462 m²を実習室で充足している。講義系教室は、総面積約 2,000 m² 16 教室で、収容定員増加後も運用については問題のない状況である。しかしながら、教育環境の維持充実を図るため、今後も計画的に施設・設備の点検を図り、引き続き教育の質向上に努めていく。

学則変更の趣旨等を記載した書類（資料）

資料目次

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 教育課程等の概要（添付資料） | P.2 |
|-------------------|-----|

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(芸術学部造形学科)																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助手を除く)			
一般 教育 科目	導入	導入ゼミ	1前	○		2			○			5	1					オムニバス	
	人間と表現	芸術学概論 コミュニケーション表現 人間論 宗教学 文芸論A 文芸論B 文章表現演習	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前	○		2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1 1					兼1 兼1		
	現代社会と環境	法学（日本国憲法） 生涯学習概論 文化人類学 自然環境論 世界遺産論 観光文化論 サイエンス・リテラシー ボランティア演習	1・2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後			2 2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1					兼1 兼1 兼1		
	からだとこころ	心理学A（社会・臨床心理学） 心理学B（発達・青年心理） 生涯スポーツ演習 健康科学演習A 健康科学演習B	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前後 1・2・3・4前 1・2・3・4後			2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○			1 1						兼4 兼1 兼1	オムニバス
	言語と表現	英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV 仏語 I A-1 仏語 I A-2 仏語 I B-1 仏語 I B-2 仏語 II-1 仏語 II-2 中国語 I-1 中国語 I-2 中国語 II-1 中国語 II-2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後			1 1 1 1 3 3 1 1 1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 3 3 1 1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
	情報	情報処理演習 I 情報処理演習 II 画像基礎演習 画像応用演習 情報基礎論	1・2・3・4前後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前			1 1 1 1 2			○ ○ ○ ○ ○									兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	美術研修	国内美術研修 海外美術研修 海外美術実地研究	1・2・3・4休 1・2・3・4休 2・3・4休			1 1 2			○ ○ ○			1 1 1							
	伝統芸術	華道理論 I 華道理論 II 華道 I 華道 II 華道 III 華道 IV	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	○ ○		2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1						兼3 兼3 兼2 兼2	

一般教育科目	華道V	3・4前			2			○							兼1	
	華道VI	3・4後			2			○							兼1	
	華道VII	4前			2			○							兼1	
	華道VIII	4後			2			○							兼1	
	書道I-1	1・2・3・4前			1				○						兼1	
	書道I-2	1・2・3・4後			1				○						兼1	
	書道II-1	2・3・4前			1				○						兼1	
	書道II-2	2・3・4後			1				○						兼1	
キャリアプログラム	コンピューター基礎実習	1・2・3・4前後			1				○						兼1	
	キャリアデザイン演習A	2・3・4前			1			○				1				
	キャリアデザイン演習B	3・4前			1			○				1				
	キャリア実践演習	3・4後			2			○				1				
	キャリア体験演習A	2・3・4前			2			○				1				
	キャリア体験演習B	3・4前			2			○				1				
小計(63科目)	—	—	0	103	0	—	—	—	—	5	2	1			29	—
専門教育科目I	芸術の世界	日本美術史	1・2・3・4前	○		2		○			1					
		東洋美術史	1・2・3・4後	○		2		○			1					
		西洋美術史	1・2・3・4後	○		2		○			1					
		西洋近代美術史	1・2・3・4後			2		○			1					
		現代美術論	1・2・3・4後			2		○								兼1
		日本建築文化史	1・2・3・4前			2		○								兼1
		西洋建築文化史	1・2・3・4前			2		○								兼1
		工芸概論	1・2・3・4前			2		○								兼1
		映像芸術論	1・2・3・4前			2		○								兼1
	映像文化史	1・2・3・4前			2		○								兼1	
	芸術と社会	デザイン史	1・2・3・4後			2		○								兼1
		デザイン概論	1・2・3・4後	○		2		○				1	1			
		芸術論購読	1・2・3・4前			2			○		1					隔年開講
		メディアデザイン概論	1・2・3・4前			2		○				1				
		メディア工学	2・3・4後			2		○								兼1
		感性科学概論	2・3・4後			2		○								兼1
		ユニバーサルデザイン論	1・2・3・4前			2		○								兼1
		観光デザイン概論	1・2・3・4前	○		2		○			1					
		シナリオ制作論	1・2・3・4後			2		○								兼2
		芸術心理学	2・3・4前			2		○								兼1
		芸術と思想	1・2・3・4後			2		○								兼1
		芸術と科学	1・2・3・4前			2		○								兼1
		芸術思考法演習	3・4後			2			○		1					隔年
		現代社会と芸術	1・2・3・4前			2		○								兼1
	アートマネジメント論	1・2・3・4前			2		○								兼1	
	アートマネジメント演習	2・3・4後			2			○							兼1	
	知的財産論	2・3・4後			2		○								兼1	
保存科学概論	1・2・3・4前			2		○								兼1		
京都プロジェクト	京都デザイン論	1・2・3・4前	○		2		○			1						
	京都文化論	1・2・3・4後	○		2		○			1						
	仏教文化論	1・2・3・4前			2		○								兼1	
	芸能文化史	1・2・3・4後			2		○								兼1	
	京都プロジェクトA	2・3・4前			2			○		1	1					
	京都プロジェクトB	2・3・4前			2			○		2						
	京都プロジェクトC	2・3・4前			2			○							兼1	
小計(35科目)	—	—	0	70	0	—	—	—	5	1	1				20	
専門教育科目2	専門必修科目	芸術の力実習	1前	○	4				○	1	1				兼11	オムニバス
		領域基礎演習I	1前	○	2				○	6	1					オムニバス
		造形専門実習	1後	○	4				○	1	1	1			兼8	オムニバス
		領域基礎演習II	1後	○	2				○	5	1					オムニバス
		造形専門演習I	2前	○	6				○	5	2	1			兼17	オムニバス
		造形専門演習II	2後	○	6				○	6	2	1			兼20	オムニバス
		造形専門演習III	3前	○	6				○	4	2	1			兼10	オムニバス
		造形専門演習IV	3後	○	6				○	5	2	0			兼13	オムニバス
		卒業制作I	4前	○	6				○	6	2	1			兼9	オムニバス
		卒業制作II	4後	○	6				○	6	2	1			兼6	オムニバス
		小計(10科目)	—	—	48	0	0	—	—	—	6	2	1			

専門教育科目2	造形学 選択科目	東洋・日本美術研究A	2・3・4前		2	○							兼1	隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 オムニバス オムニバス
		東洋・日本美術研究B	2・3・4後		2	○							兼1	
		東洋・日本美術理論演習	3.4後		2		○			1				
		西洋美術研究A	2・3・4後		2		○			1				
		西洋美術研究B	2・3・4前		2		○			1				
		西洋美術理論演習	3.4前		2			○		1				
		アーティストブック研究	3.4前		2			○						
		先端芸術・メディアアート研究	2・3・4後		2			○			1			
		現代芸術研究A	2・3・4前		2			○			1			
		現代芸術研究B	2・3・4後		2			○						
		現代芸術理論演習	3.4後		2				○		1			
		近代芸術研究	2・3・4後		2				○		1			
		現代作家論A	2・3・4前	○	2			○		3				
		現代作家論B	2・3・4後	○	2				○	1	1			
	選択演習科目	オープン演習A	2・3・4後		2						1			兼1
		オープン演習B	2・3・4前		2									
		オープン演習C	2・3・4後		2						1			
		オープン演習D	2・3・4前		2					1				
		オープン演習E	2・3・4前		2						1			
		オープン演習F	2・3・4後		2									兼1
オープン演習G		2・3・4前		2									兼1	
オープン演習H		2・3・4後		2										
オープン演習I		2・3・4後		2					1					
オープン演習J		2・3・4前		2									兼1	
オープン演習L		2・3・4前		2									兼1	
オープン演習M		2・3・4後		2									兼1	
オープン演習P		2・3・4後		2									兼1	
オープン演習T		2・3・4前		2					1					
オープン演習V		2・3・4前		2									兼1	
オープン演習X		2・3・4前		2									兼1	
オープン演習Y	2・3・4後		2									兼1		
小計(31科目)			—	—	0	62			—	6	5	0		10
資格課程科目	教職科目	教育原理	1後		2			○						兼1
		教職論	1前		2			○		1				
		教育経営学	1後		2			○		1				
		教育心理学	1前		2			○						兼1
		特別支援教育論	3前		2			○						兼2
		教育課程論	2後		2			○						兼1
		道徳教育論	2後		2			○						兼1
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前		2			○		1				
		教育の方法及び技術	2前		2			○						兼1
		生徒指導及び進路指導法	2後		2			○		1				
		教育相談論	3後		2			○						兼1
		教育実習Ⅰ	4通		2				○	1				
		教育実習Ⅱ	4通		2				○	1				
		教育実習事前事後指導	4通		1				○	1				
		教職実践演習	4後		2				○	2				
		美術科教育法Ⅰ	2前		2			○		1				
		美術科教育法Ⅱ	2後		2			○		1				
		美術科教育法Ⅲ	3前		2			○		1				
		美術科教育法Ⅳ	3後		2			○		1				
小計(19科目)			—	—	0	37	0		—	2	0	0		8
学芸員科目	博物館	博物館概論	2・3前		2			○		1				兼1
		博物館経営論	3・4前		2			○						
		博物館資料論	2・3前		2			○		1				兼3
		博物館資料保存論	3・4前		2			○		1				兼3
		博物館展示論	2・3後		2			○		1				兼3
		博物館情報メディア論	2.3.4後		2			○		1				
		博物館教育論	3・4前		2			○						兼1
		博物館実習	3.4通		3				○	1				兼1
小計(8科目)			—	—	0	17	0		—	2	0	0		9
合計(166科目)			—	—	48	289	0		—	19	6	2		109

学位又は称号	学士（芸術）	学位又は学科の分野	美術関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
卒業に必要な単位数は次の各号に定めるところにより、124単位以上とする。 (1) 一般教育科目から34単位以上（内、言語と表現より4単位必修、情報より1単位必修）取得する。 (2) 専門教育科目1から20単位以上（内、京都プロジェクト関連科目から2単位必修）取得する。 (3) 専門教育科目2選択科目より14単位以上（内造形学科選択科目から6単位、選択演習科目から2単位必修）取得する。 (4) 専門教育科目2の48単位を必修科目とする。 (5) (1)～(3)の必修単位数を超えて取得した単位数あるいはデザイン学科専門教育科目2選択科目から取得した単位数の合計8単位以上取得する。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	80分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(芸術学部デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
一般 教育 科目	導入 導入ゼミ	1前	○		2			○		5	1					オムニバス
	人間と表現 芸術学概論 コミュニケーション表現 人間論 宗教学 文芸論A 文芸論B 文章表現演習	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前	○		2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1 1	1					兼1 兼1
	現代社会と環境 法学（日本国憲法） 生涯学習概論 文化人類学 自然環境論 世界遺産論 観光文化論 サイエンス・リテラシー ボランティア演習	1・2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後			2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1						兼1 兼1 兼1
	からだところ 心理学A（社会・臨床心理学） 心理学B（発達・青年心理） 生涯スポーツ演習 健康科学演習A 健康科学演習B	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前後 1・2・3・4前 1・2・3・4後			2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1						兼1 兼1 兼4 兼1 兼1
	言語と表現 英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV 仏語 I A-1 仏語 I A-2 仏語 I B-1 仏語 I B-2 仏語 II-1 仏語 II-2 中国語 I-1 中国語 I-2 中国語 II-1 中国語 II-2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後			1 1 1 1 3 3 1 1 1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		3 3 1 1	1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	情報 情報処理演習 I 情報処理演習 II 画像基礎演習 画像応用演習 情報基礎論	1・2・3・4前後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前			1 1 1 1 2			○ ○ ○ ○ ○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	美術研修 国内美術研修 海外美術研修 海外美術実地研究	1・2・3・4休 1・2・3・4休 2・3・4休			1 1 2			○ ○ ○		1 1 1						
	伝統 華道理論 I 華道理論 II 華道 I 華道 II 華道 III 華道 IV 華道 V	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前	○ ○		2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1						兼3 兼3 兼2 兼2 兼1

一般教育科目	芸術	華道VI	3・4後		2			○						兼1	
		華道VII	4前		2			○						兼1	
		華道VIII	4後		2			○						兼1	
		書道I-1	1・2・3・4前		1					○				兼1	
		書道I-2	1・2・3・4後		1					○				兼1	
		書道II-1	2・3・4前		1					○				兼1	
		書道II-2	2・3・4後		1					○				兼1	
キャリアプログラム	コンピューター基礎実習	1・2・3・4前後		1					○				兼1		
	キャリアデザイン演習A	2・3・4前		1				○			1				
	キャリアデザイン演習B	3・4前		1				○			1				
	キャリア実践演習	3・4後		2				○			1				
	キャリア体験演習A	2・3・4前		2				○			1				
	キャリア体験演習B	3・4前		2				○			1				
小計 (63科目)			—	0	103	0		—		5	2	1		29	—
専門教育科目 I	芸術の世界	日本美術史	1・2・3・4前	○	2			○			1				
		東洋美術史	1・2・3・4後	○	2			○			1				
		西洋美術史	1・2・3・4後	○	2			○			1				
		西洋近代美術史	1・2・3・4後		2			○			1				
		現代美術論	1・2・3・4後		2			○						兼1	
		日本建築文化史	1・2・3・4前		2			○						兼1	
		西洋建築文化史	1・2・3・4前		2			○						兼1	
		工芸概論	1・2・3・4前		2			○						兼1	
		映像芸術論	1・2・3・4前		2			○						兼1	
		映像文化史	1・2・3・4前		2			○						兼1	
	芸術と社会	デザイン史	1・2・3・4後		2			○						兼1	
		デザイン概論	1・2・3・4後	○	2			○			1	1			隔年開講
		芸術論購読	1・2・3・4前		2				○		1				
		メディアデザイン概論	1・2・3・4前		2			○				1			
		メディア工学	2・3・4後		2			○						兼1	
		感性科学概論	2・3・4後		2			○						兼1	
		ユニバーサルデザイン論	1・2・3・4前		2			○						兼1	
		観光デザイン概論	1・2・3・4前	○	2			○			1				
		シナリオ制作論	1・2・3・4後		2			○						兼2	オムニバス
		芸術心理学	2・3・4前		2			○						兼1	
芸術と思想	1・2・3・4後		2			○						兼1			
芸術と科学	1・2・3・4前		2			○						兼1			
芸術思考法演習	3・4後		2				○		1				隔年		
現代社会と芸術	1・2・3・4前		2			○						兼1			
アートマネジメント論	1・2・3・4前		2			○						兼1			
アートマネジメント演習	2・3・4後		2				○					兼1			
知的財産論	2・3・4後		2			○						兼1			
保存科学概論	1・2・3・4前		2			○						兼1			
京都プロジェクト	京都デザイン論	1・2・3・4前	○	2			○			1					
	京都文化論	1・2・3・4後	○	2			○			1					
	仏教文化論	1・2・3・4前		2			○						兼1		
	芸能文化史	1・2・3・4後		2			○						兼1		
	京都プロジェクトA	2・3・4前		2				○		1	1				
	京都プロジェクトB	2・3・4前		2				○		2				共同	
	京都プロジェクトC	2・3・4前		2				○					兼1		
小計 (35科目)			—	0	70	0		—		5	1	1		20	
専門教育科目 2	専門必修科目	芸術の力実習	1前	○	4				○	1	1			兼12	オムニバス
		領域基礎演習 I	1前	○	2				○	6	1			兼2	オムニバス
		デザイン専門実習	1後	○	4				○	1	1	1		兼8	オムニバス
		領域基礎演習 II	1後	○	2				○	5	1			兼2	オムニバス
		デザイン専門演習 I	2前	○	6				○	5	2	1		兼17	オムニバス
		デザイン専門演習 II	2後	○	6				○	6	2	1		兼24	オムニバス
		デザイン専門演習 III	3前	○	6				○	4	2	1		兼21	オムニバス
		デザイン専門演習 IV	3後	○	6				○	5	2	0		兼20	オムニバス
		卒業制作 I (卒業研究 I)	4前	○	6				○	6	2	1		兼2	オムニバス
		卒業制作 II (卒業研究 II)	4後	○	6				○	6	2	1		兼3	オムニバス
小計 (10科目)			—	48	0	0		—	8	4	3		47		
	プロダクトデザイン論	2・3・4前	○	2			○			1					
	インテリアデザイン論	2・3・4前		2			○						兼1		
	ビジュアルデザイン論	2・3・4後		2			○						兼1		

専門教育科目2	デザイン学科選択科目	広告論	2・3・4後			2		○			1												
		商品企画論	2・3・4後			2		○			1												
		色彩計画論	2・3・4後			2		○														兼1	
		メディア技術史	2・3・4後			2		○														兼1	
		アニメーション論	2・3・4後	○		2		○			1											兼1	
		インターフェイス論	2・3・4前			2		○														兼1	
		キャラクターデザイン論	2・3・4前	○		2		○			1											兼1	
		ゲームデザイン論	2・3・4前			2			○													兼1	
		ICT演習	2・3・4後			2			○													兼1	
		メディアプロデュース	2・3・4前	○		2			○				1									兼1	
		工芸研究(エスニック)	2・3・4前			2			○													兼1	
		テキスタイルデザイン論	2・3・4後	○		2			○			1										兼1	
		ファッションデザイン論	2・3・4前			2			○													兼1	
		選択演習科目	オープン演習A	2・3・4後			2			○			1										兼1
			オープン演習B	2・3・4前			2			○													
オープン演習C	2・3・4後				2			○			1												
オープン演習D	2・3・4前				2			○		1													
オープン演習E	2・3・4前				2			○			1												
オープン演習F	2・3・4後				2			○													兼1		
オープン演習G	2・3・4前				2			○													兼1		
オープン演習H	2・3・4後				2			○													兼1		
オープン演習I	2・3・4後				2			○		1													
オープン演習J	2・3・4前				2			○													兼1		
オープン演習L	2・3・4前				2			○													兼1		
オープン演習M	2・3・4後				2			○													兼1		
オープン演習P	2・3・4後				2			○													兼1		
オープン演習T	2・3・4前				2			○		1													
オープン演習V	2・3・4前			2			○													兼1			
オープン演習X	2・3・4前			2			○													兼1			
オープン演習Y	2・3・4後			2			○													兼1			
小計(33科目)		—	—	0	66			—		8	4	1									19		
資格課程科目	教職科目	教育原理	1後		2		○														兼1		
	教職論	1前			2		○			1													
	教育経営学	1後			2		○			1													
	教育心理学	1前			2		○														兼1		
	特別支援教育論	3前			2		○														兼2		
	教育課程論	2後			2		○														兼1		
	道徳教育論	2後			2		○														兼1		
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前			2		○			1													
	教育の方法及び技術	2前			2		○														兼1		
	生徒指導及び進路指導法	2後			2		○			1													
	教育相談論	3後			2		○														兼1		
	教育実習Ⅰ	4通			2			○		1													
	教育実習Ⅱ	4通			2			○		1													
	教育実習事前事後指導	4通			1			○		1													
	教職実践演習	4後			2			○		2											オムニバス		
	美術科教育法Ⅰ	2前			2		○			1													
	美術科教育法Ⅱ	2後			2		○			1													
	美術科教育法Ⅲ	3前			2		○			1													
	美術科教育法Ⅳ	3後			2		○			1													
小計(19科目)		—	—	0	37	0		—		2	0	0	0								8		
学芸員科目	博物館概論	2・3前			2		○			1											兼1		
	博物館経営論	3・4前			2		○																
	博物館資料論	2・3前			2		○			1											兼3		
	博物館資料保存論	3・4前			2		○			1											兼3		
	博物館展示論	2・3後			2		○			1											オムニバス		
	博物館情報メディア論	2・3・4後			2		○			1													
	博物館教育論	3・4前			2		○														兼1		
	博物館実習	3・4通			3			○		1											兼1		
小計(8科目)		—	—	0	17	0		—		2	0	0									9		
合計168科目		—	—	48	293	0		—		19	5	4									132		

学位又は称号	学士(芸術)	学位又は学科の分野	美術関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
卒業に必要な単位数は次の各号に定めるところにより、124単位以上とする。 (1) 一般教育科目から34単位以上(内、言語と表現より4単位必修、情報より1単位必修)取得する。 (2) 専門教育科目1から20単位以上(内、京都プロジェクト関連科目から2単位必修)取得する。 (3) 専門教育科目2選択科目より14単位以上(内デザイン学科選択科目から6単位、選択演習科目から2単位必修)取得する。 (4) 専門教育科目2の48単位を必修科目とする。 (5) (1)～(3)の必修単位数を超えて取得した単位数あるいは造形学科専門教育科目2選択科目から取得した単位数の合計8単位以上取得する。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	80分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学生確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 収容定員を増加する組織の概要	P 2
① 収容定員を増加する組織の概要	P 2
② 収容定員を増加する組織の特色	P 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	P 3
① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	P 3
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	P 3
③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域	P 6
④ 既設組織の定員充足の状況	P 7
(3) 学生確保の見通し	P 9
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P 9
ア. 既設組織における取組とその目標	P 9
イ. 収容定員を増加する組織における取組とその目標	P 1 1
ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数	P 1 2
② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	P 1 2
ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	P 1 2
イ. 競合校の入学志願動向等	P 1 3
ウ. 収容定員を増加する組織の金額設定の理由	P 1 6
③ 人材需要に関するアンケート調査等	P 1 6
(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由	P 1 8

(1) 収容定員を増加する組織の概要

① 収容定員を増加する組織の概要

収容定員増加組織	入学定員	3年次編入 学定員	収容定員	所在地
嵯峨美術大学芸術学部造形学科	57	5	238	京都市右京区嵯峨五島町1番地
嵯峨美術大学芸術学部デザイン 学科	123	5	502	京都市右京区嵯峨五島町1番地

② 収容定員を増加する組織の特色

本学は、建学の理念のもと、国際文化都市京都にあって、自然と文化の調和を体感できるここ嵯峨野に確固たる芸術教育の拠点を築き、わが国の芸術文化の振興に寄与するとともに、積極的な社会貢献を果たすに足る知識と技術をそなえた、創造的で感性豊かな表現者、文化デザイナーを養成し、広く国際社会に送り出すことを学園の使命としている。

※建学の理念・・・大覚寺が始祖と仰ぐ嵯峨天皇ならびに宗祖弘法大師の思想と実践に学び、その精神を現代の高等教育に活かすべく、広義の芸術教育を通じて創造性と人間性の涵養に努め、豊かで平和な社会の実現に貢献できる人材を育成する。

本学は、芸術学部のみ設置する単科大学で、実習・演習・講義を基幹とした芸術教育を通して、学生の個性を尊重し創造的で感性豊かな表現者、文化デザイナーの養成を目標としている。また、芸術文化領域での伝統と革新の融合を図り、確実な社会貢献を果たせるよう、基礎・基本教育の充実と同時に、総合的で学際的な教育研究を推進し、社会の要請に柔軟に対応できる幅広い視野と専門性を持つ人材の育成を目標としている。そのために、造形学科とデザイン学科の2学科のもと、9つの専門領域を設けている。

■造形学科

日本画・古画領域

油画・版画領域

複合領域

■デザイン学科

グラフィックデザイン領域

イラストレーション領域

キャラクターデザイン領域

観光デザイン領域

生活プロダクト領域

染織・テキスタイル領域

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

政府が策定している「文化芸術推進基本計画」の第2期基本計画（令和5年3月24日閣議決定）において定められた、今後5年間（令和5年度～令和9年度）において推進する7つの重点取組を見ると、本学が養成する人材が必要とされるケースが多い。重点取組①「ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進」においては、文化芸術の担い手として「アート市場の活性化のための人材」が必要である（作家、キュレーター等）。さらに「マンガ、アニメーション、ゲーム等のメディア芸術の振興」も施策として掲げられており、この分野の人材育成とも本学の教育内容は合致する。重点取組②「文化資源の保存と活用の一層の促進」においても、本学造形学科日本画・古画領域において古画の研究及び保存修復を専門的に学ぶ領域があり、「文化財の修復に携わる専門的な人材」を多数輩出しており、貢献している。重点取組③「文化芸術を通じた時代を担う子供たちの育成」においても、在学中に教員免許を取得後、美術教員として子供たちへの文化芸術教育を担っている人材を毎年、輩出していることで取組に合致している。重点取組⑤「文化芸術のグローバル展開の加速」においては外国人留学生がキーになる。外国人留学生の入学志願者は急増しているが、現状は入学定員が少ないため、本学で学ぶ機会を十分に与えられていない。門戸を広げ、日本の文化芸術を学び研究する外国人留学生を増やせば、国際交流やグローバル化の進展に繋がると考えられる。重点取組⑥「文化芸術を通じた地方創生の推進」については、本学に入学する学生の出身都道府県の幅広さ（毎年20～30府県より入学）から、地方創生に有用な人材を育成している事例がある。本学で学んだ後、地元に戻ってくる学生ばかりではないが、一定数は地元に戻っており、文化芸術に携わる仕事に就いている卒業生も存在する。重点取組⑦「デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進」では「メタバース等の仮想空間における表現形態の多様化を活用したコンテンツの創出を促進する」と記されており、この件については既に本学デザイン学科キャラクターデザイン領域において取り組んでいる。上記の通り、本学で養成しようとする人材は、今後の日本全体、および地域社会において必要とされている。

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

以下に示す【図表1】リクルート進学総研レポート「18歳人口・進学率・地元残留率の動向2022（近畿エリア）」によれば、令和7年から令和16年までの10年間で全国の18歳人口は109万人から100万人に減少し、近畿圏の18歳人口は17.9万人から16.3万人まで約10%減少する。数値的に楽観できる状態ではないが、必ずしも18歳人口の減少に比例して、全ての学問系統の大学志望者が減少するわけではないことは、以下に示す【図表2】「学部系統別私立大学入学志願動向（芸術系）※音楽学部は除く」の数値からも明らか

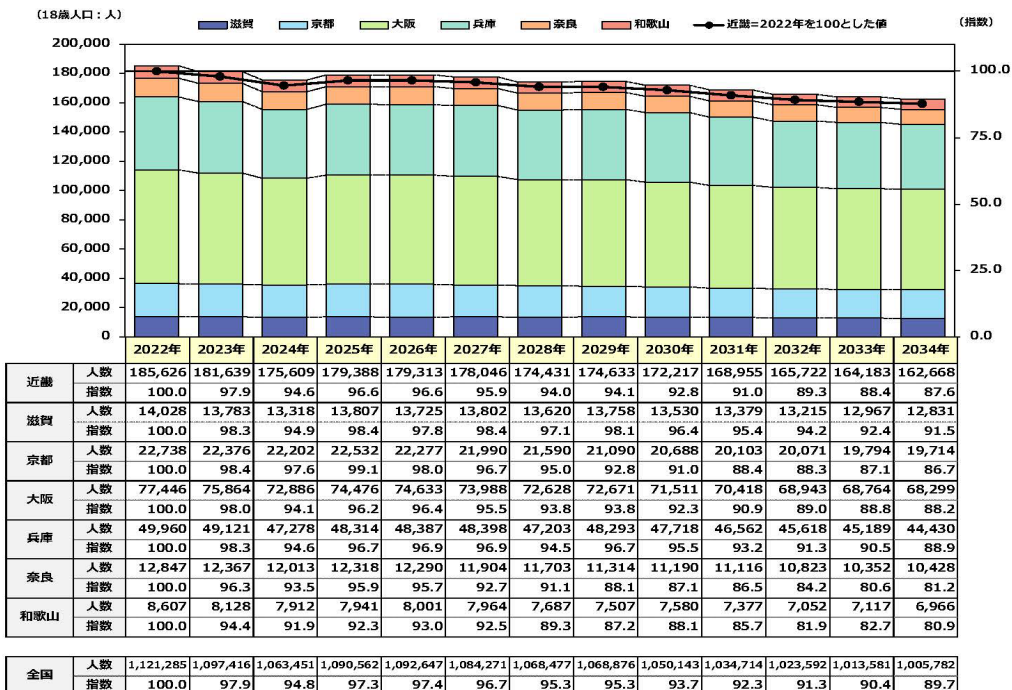
である。現在より10万人多い120万人の18歳人口が存在した平成27年に、36,528人だった全国の芸術系大学志願者が、18歳人口が10万人減った令和5年度に56,410人と約1.5倍に増加している。反対に、文学部など近年志願者が減少している学問系統も存在する。芸術系の学問系統が受験生人気とともに見直されてきていることは明らかで、総合大学においても芸術、美術、デザイン系の学部・学科・コースの新設は増えつつある（例：立命館大学映像学部など）。IT、インターネット、SNS社会におけるクリエイター需要の高まりや、ビジネスにおけるアート思考、デザイン思考のニーズ、企業が求める人材の多様化などは今後も進むものと思われ、芸術系大学志願者の増加する可能性も推察されよう。さらに本学は入学定員が少ないため、近年の入学者のうち外国人留学生の占める割合が1%に満たない。入学定員が増えることで外国人留学生に対しても積極的に学生募集ができることを考えると、今後も長期に渡って安定した定員充足が可能と思われる。

【図表1】「18歳人口・進学率・地元残留率の動向2022（近畿エリア）」

18歳人口予測（全体：近畿：2022～2034年）

■ 2022年185,626人→2034年162,668人（22,958人減少）

- ・近畿エリアは22,958人・12.4%減少し、全国の減少率10.3%を2.1ポイント上回る。
- ・2024年に175,609人まで減少し、翌2025年に3,779人増加するがその後再び減少に転じ、2029年に微増するが、2030年以降は減少する。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2022年比較19.1%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2022年77,446人→2034年68,299人、9,147人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

【図表 2】学部系統別私立大学入学志願動向（芸術系）※音楽学部は除く

	集計学部数	入学定員	志願者数	入学者数	入学定員充足率	18歳人口(万人)
平成26年度	39	11,443	36,464	11,307	0.99	118
平成27年度	37	10,893	36,528	10,819	0.99	120
平成28年度	37	10,837	35,938	10,949	1.01	119
平成29年度	36	10,968	39,274	11,518	1.05	120
平成30年度	36	11,174	43,465	11,861	1.06	118
令和元年度	38	11,251	48,691	12,241	1.09	117
令和2年度	38	11,161	53,450	12,303	1.10	117
令和3年度	37	11,078	49,191	11,925	1.08	114
令和4年度	37	11,128	52,856	12,088	1.09	112
令和5年度	38	11,443	56,410	12,485	1.09	110

※データ元：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

18歳人口については文部科学省「学校基本統計」

③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

芸術系学部を有する大学は、他の学問系統の大学と異なり全国的に数が少ない。また、専門的設計がなされ、施設設備面において芸術・美術系に特化した学びの環境を有する芸術系専門大学のある都道府県は、東京都や京都府の他、日本の限られた都道府県にしか存在しない。そのため本学の学生募集地域は全国に及び、毎年20を超える都道府県からの入学実績がある。その中で多数を占めるのはキャンパスのある京都府と、隣県の大阪府、兵庫県、滋賀県の4県である。入学者のうち、この4県出身者の占める割合は、次ページに示した【図表3】の通り、直近5年間で66.5～69.8%であり、主な学生募集地域となる。

【図表 3】出身都道府県別入学者数の推移

2022年度			2021年度			2020年度			2019年度			2018年度		
出身地	人数	%	出身地	人数	%	出身地	人数	%	出身地	人数	%	出身地	人数	%
大阪	50	30.9%	大阪	59	36.2%	大阪	58	34.5%	大阪	47	27.8%	大阪	53	31.2%
京都	37	22.8%	京都	33	20.2%	京都	42	25.0%	京都	41	24.3%	京都	37	21.8%
兵庫	17	10.5%	兵庫	16	9.8%	兵庫	11	6.5%	兵庫	20	11.8%	滋賀	15	8.8%
滋賀	9	5.6%	香川	10	6.1%	香川	9	5.4%	滋賀	7	4.1%	兵庫	8	4.7%
奈良	5	3.1%	静岡	6	3.7%	奈良	6	3.6%	香川	6	3.6%	香川	6	3.5%
福岡	5	3.1%	三重	5	3.1%	静岡	4	2.4%	福井	5	3.0%	福井	6	3.5%
富山	4	2.5%	岡山	5	3.1%	滋賀	4	2.4%	長崎	5	3.0%	富山	4	2.4%
静岡	4	2.5%	福井	4	2.5%	和歌山	3	1.8%	和歌山	4	2.4%	静岡	3	1.8%
香川	4	2.5%	滋賀	4	2.5%	富山	3	1.8%	宮崎	2	1.2%	愛媛	3	1.8%
沖縄	4	2.5%	和歌山	3	1.8%	三重	3	1.8%	三重	2	1.2%	岡山	3	1.8%
福井	3	1.9%	愛媛	3	1.8%	愛媛	3	1.8%	愛媛	3	1.8%	山口	3	1.8%
三重	3	1.9%	富山	2	1.2%	山形	2	1.2%	静岡	3	1.8%	鹿児島	3	1.8%
和歌山	3	1.9%	長野	2	1.2%	福井	2	1.2%	鹿児島	2	1.2%	奈良	2	1.2%
岡山	2	1.2%	岐阜	2	1.2%	千葉	2	1.2%	奈良	3	1.8%	福岡	2	1.2%
北海道	1	0.6%	青森	1	0.6%	岡山	2	1.2%	高知	2	1.2%	北海道	2	1.2%
宮城	1	0.6%	茨城	1	0.6%	福岡	2	1.2%	山口	2	1.2%	和歌山	2	1.2%
山形	1	0.6%	神奈川	1	0.6%	長崎	2	1.2%	富山	2	1.2%	広島	2	1.2%
福島	1	0.6%	石川	1	0.6%	北海道	1	0.6%	新潟	2	1.2%	島根	2	1.2%
長野	1	0.6%	愛知	1	0.6%	宮城	1	0.6%	東京	1	0.6%	三重	2	1.2%
愛知	1	0.6%	奈良	1	0.6%	新潟	1	0.6%	福岡	1	0.6%	沖縄	2	1.2%
広島	1	0.6%	鳥取	1	0.6%	石川	1	0.6%	佐賀	1	0.6%	熊本	1	0.6%
山口	1	0.6%	福岡	1	0.6%	鳥取	1	0.6%	大分	1	0.6%	新潟	1	0.6%
愛媛	1	0.6%	沖縄	1	0.6%	島根	1	0.6%	岡山	1	0.6%	愛知	1	0.6%
高知	1	0.6%	その他	0	0.0%	徳島	1	0.6%	広島	1	0.6%	鳥取	1	0.6%
佐賀	1	0.6%			宮崎	1	0.6%	長野	1	0.6%	高知	1	0.6%	
その他	1	0.6%			その他	2	1.2%	岐阜	1	0.6%	群馬	1	0.6%	
								愛知	1	0.6%	石川	1	0.6%	
								その他	2	1.2%	その他	3	1.8%	
計	162	100.0%	計	163	100.0%	計	168	100.0%	計	169	100.0%	計	170	100.0%

④ 既設組織の定員充足の状況

嵯峨美術大学芸術学部の過去10年間の入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員充足率は以下の【図表 4】の通りである。

【図表 4】嵯峨美術大学芸術学部の入学定員等の推移

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
平成 26 年度	180	212	199	157	92	0.51
平成 27 年度	120	237	234	202	112	0.93
平成 28 年度	120	385	380	210	133	1.10
平成 29 年度	120	471	469	266	178	1.48
平成 30 年度	135	607	590	227	170	1.26

令和元年度	135	627	616	209	169	1.25
令和2年度	135	925	908	227	168	1.24
令和3年度	135	833	807	236	163	1.21
令和4年度	135	981	951	226	162	1.20
令和5年度	135	888	843	215	142	1.05

嵯峨美術大学芸術学部の学科別（造形学科・デザイン学科）の過去10年間の入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員充足率は以下の【図表5】【図表6】通りである。

【図表5】造形学科の入学定員等の推移

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
平成26年度	85	74	70	55	32	0.37
平成27年度	40	67	65	56	30	0.75
平成28年度	40	119	117	75	47	1.17
平成29年度	40	176	176	95	62	1.55
平成30年度	45	183	179	81	48	1.07
令和元年度	45	219	216	79	54	1.20
令和2年度	45	281	280	86	57	1.27
令和3年度	45	293	286	89	54	1.20
令和4年度	45	412	404	96	63	1.40
令和5年度	45	330	315	98	48	1.07

【図表6】デザイン学科の入学定員等の推移

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
平成26年度	95	138	129	102	60	0.63
平成27年度	80	170	169	146	82	1.02
平成28年度	80	266	263	135	86	1.07
平成29年度	80	295	293	171	116	1.45
平成30年度	90	424	411	146	122	1.36
令和元年度	90	408	400	130	115	1.28
令和2年度	90	644	628	141	111	1.23
令和3年度	90	540	521	147	109	1.21
令和4年度	90	569	547	130	99	1.10
令和5年度	90	558	528	117	94	1.04

本学の過去10年間の定員充足状況については【図表4】の通りである。志願者数は直近5年間の平均値で850.8人であり、入学定員（135人）の6倍前後という状況で順調に推移している。入学定員充足率は1.00倍を超過することが常態化しており、合格者数の調整により入学定員充足率超過の改善に努めているが、入学定員数の少なさゆえに合格者数を絞りすぎると入学定員未充足のリスクも高まるため、定員管理は容易で

はない状況である。定員を充足する見込みは数値上、十分に立っていると思われる。

なお、同一法人内に設置されている嵯峨美術大学大学院及び嵯峨美術短期大学の定員充足の状況は、以下の【図表7】【図表8】の通りである。大学院では、令和5年度の入学定員充足率が0.75と低値となっているが、合格者の歩留りを読み違えたため、外国人留学生の志願者が増加傾向にあり、入試倍率は10倍を超えている状況である。また併設の嵯峨美術短期大学は、平成29年度以降入学定員を充足しており、ここ2年間は入学定員充足率が高くなっている。嵯峨美術大学の収容定員増に伴い、嵯峨美術短期大学の入学者の減少は一定数見込まれるが、ここ数年の入学定員超過率を踏まえると、入学定員は充足できる見込みである。

【図表7】 嵯峨美術大学 大学院の入学定員等の推移

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
平成26年度	8	21	21	19	14	1.75
平成27年度	8	15	15	13	10	1.25
平成28年度	8	19	17	13	13	1.63
平成29年度	8	14	14	10	9	1.13
平成30年度	8	21	21	12	11	1.38
令和元年度	8	24	22	13	11	1.38
令和2年度	8	39	38	9	8	1.0
令和3年度	8	59	58	11	9	1.13
令和4年度	8	79	79	12	9	1.13
令和5年度	8	91	91	8	6	0.75

【図表8】 嵯峨美術短期大学の入学定員等の推移

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
平成26年度	150	178	163	148	123	0.82
平成27年度	150	139	137	130	118	0.79
平成28年度	150	227	218	168	141	0.94
平成29年度	150	271	269	175	153	1.02
平成30年度	150	352	346	219	185	1.23
令和元年度	150	330	324	221	182	1.21
令和2年度	150	433	426	237	186	1.24
令和3年度	150	320	312	220	176	1.17
令和4年度	150	396	380	242	184	1.23
令和5年度	150	474	449	229	188	1.25

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア. 既設組織における取組とその目標

■大学案内資料（以下、「資料」という。）請求者数の増加・確保

【図表9】資料請求者数の推移と志願者数・入学者数

	資料請求者数（延べ）	入学志願者数	翌年度入学者数
平成25年度	5,011	212	92
平成26年度	7,667	237	112
平成27年度	9,793	385	133
平成28年度	11,256	471	178
平成29年度	11,381	607	170
平成30年度	12,085	627	169
令和元年度	13,075	925	168
令和2年度	13,925	833	163
令和3年度	16,768	981	162
令和4年度	18,182	888	142

入学者数が大きく低迷し、入学定員未充足であった平成25年度時点の現状分析において、資料請求者の少なさが本学の全国的な認知度の低さと受験候補者の少なさの原因になっていると判断し、その年度から受験者や入学者を増やす前段階の基盤整備として、まずは芸術・美術系大学に関心をもつ幅広い層に本学を知ってもらうことを最重要課題とし、資料請求者数の増加・確保に努めてきた【図表9】。そのための具体的な方策として以下の手段をとっている。

- ・各種進学情報媒体への出稿・・・芸術・美術系の学問を学べる学部が増加傾向にある昨今、コアな芸術・美術系大学志望者層だけでなく、わずかでも関心がある層に大学名を幅広く知らせる方針のもと、各種の進学情報媒体に出稿し、資料請求を受け付けている。

- ・学外進学説明会（高校内および会場形式）への参加・・・直接、口頭で受験生に大学の魅力を訴求できるため、毎年、全国各地の進学説明会に参加して、アクティブな資料請求者数の増加・確保に努めている。令和4年度には年間で計202件の進学説明会に参加した。

■大学広報ツール制作の外注化

かつては学内教員が担当していた、資料請求者リストに対して送付する大学案内などの大学紹介ツールの制作を、平成28年度より外注している。主観的かつ学内関係者目線の制作になりがちな欠点を、学外の若手デザイナーを登用することで本学の魅力を客観的に見直し、受験生目線に立った情報提供中心の広報ツールを制作している。また、大学広報ツールには表紙から誌面（映像ツールの場合は画面）に至るまで、美術大学の学びの成果であり受験生の学科・領域選択の指標となる「学生作品」を多数掲載し、視覚

的な情報提供にも努めている。

■学生募集イベントの動員増加

美術大学の場合はキャンパスが学生の主な制作場所（アトリエ）になるため、実際に制作環境を見て指導教員を知ることが受験意志を固める決め手となる。そのため、できるだけ多くの受験生にキャンパスを見てもらい、指導教員に会ってもらうことを目的として以下の学生募集イベントを開催している。入学前の来校回数が多いほど本学への理解も深まり、受験生とのマッチング上重要であることから、平成26年度からイベント形態を以下の通り多様化してリピーターを増やし、総来場者数の増加に努めている。

- ・オープンキャンパス…各学科・領域説明、入試説明会、実技試験指導、キャンパスツアー、各種ワークショップ等のプログラムを開催。令和4年度は年6回実施。
- ・体験入学…各領域の実習授業を体験。令和4年度は年4回実施。
- ・制作展見学会…2月に京都市京セラ美術館で開催される卒業制作展にて、高校生対象の見学会を開催。

【図表 10】 学生募集イベント来場者数の推移

	総来場者数（延べ/ 保護者等付添除 く）	受験対象者数 （延べ）	入学志願者数	翌年度 入学者数
平成25年度	1,079	458	212	92
平成26年度	1,219	642	237	112
平成27年度	1,530	887	385	133
平成28年度	1,992	1,081	471	178
平成29年度	1,912	1,094	607	170
平成30年度	2,208	1,087	627	169
令和元年度	2,567	1,430	925	168
令和2年度	831（※）	549（※）	833	163
令和3年度	1,958	1,223	981	162
令和4年度	2,313	1,247	888	142

※オンラインイベント視聴者数含む

■高等学校訪問、美術予備校訪問

美術大学進学者の多い高等学校は、「美術科」や「デザイン科」といった芸術系学科を持つ高等学校であり、このような専門性の高い学科を有する高等学校は、全国各都道府県に数校ずつ点在している。また、全国の都道府県に芸術・美術系大学の受験指導を専門とする予備校（画塾）が存在する。そのため、美術大学は高等学校訪問・美術予備校訪問のターゲットを絞りやすく、高等学校や美術予備校との連携もはかりやすい。本学では、学生募集担当部署である入学広報グループの職員を中心に、専任事務職員全員と教員の一部が分担して、全国の芸術系学科を持つ高校、美術大学進学者が多い高等学校、美術予備校を訪問し、入試内容の説明や出身者の現況、オープンキャンパス等のイベント情報を説明して

いる。令和4年度は延べ229件の訪問をおこなった。

■高大連携、塾大連携

上述の通り、美術大学進学者の多い「美術科」や「デザイン科」といった芸術系学科を持つ高等学校のうち複数の高等学校や都道府県の高等学校文化連盟、及び複数の美術予備校と連携し、団体でのキャンパス見学や模擬授業、出張授業、卒業制作展団体見学などの連携事業をおこなっている。連携校の生徒は高等学校の低年次から本学を認知し、理解を深めて受験年次に至るため、毎年、数多くの受験実績がある。令和4年度は45件の高(塾)大連携事業をおこなった。

■多様な入学者選抜制度の構築と継続

美術大学志望者層の属性と近年の受験動向にフィットした多様な選抜制度を構築し、実施時期や内容に修正を加えつつ、受験生や高等学校進路指導、及び美術予備校への認知度向上のため継続している。具体的には、近年の給付型奨学金受給希望者の増加に沿う形で平成26年度より導入したスカラシップ(特別奨学生)選抜を、平成28年度から受験科目を一本化(美大志望者が最も注力する実技試験のみ)し、11月と3月の年2回実施に改編したことで、受験者の飛躍的な増加(平成26年度受験者3名→令和4年度受験者283名)につなげた。スカラシップ選抜に合格して特別奨学生として入学した場合、在学中の4年間、毎年50万円の奨学金が給付されるため、学費負担が大幅に軽減され、国公立芸術系大学との学費差が小さくなる。このため、国公立芸術系大学の志望者層の併願校として近畿圏の芸術系学科を持つ高等学校や美術予備校で本学スカラシップ選抜の認知が進んでおり、美術予備校においては「嵯峨美スカラシップ入学コース」というコースを設置している事例もある。実技試験以外にも、授業への取り組みを評価する選抜や、高等学校や自宅で制作した作品とそのプレゼンテーションを評価する選抜、大学入学共通テストを利用する選抜など、評価軸の異なる多様な入学者選抜制度を構築しており、一度不合格になった受験生が別の評価軸の選抜制度で再受験して合格する事例が出るなど、受験生の多面的な評価につながっている。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

前述した、既存組織における取組とその目標に沿った活動の維持により、学則変更後も入学者を充分確保できると考えており、資料請求者数及び学生募集イベントの総来場者を維持していくことを目標とする。

ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数

上述の「資料請求者数の確保」の取組実績として、入学者数が大きく低迷していた平成25年度に比べ令和4年度は資料請求者数で約3.6倍の伸びを示している【図表9】。資料請求者数が本学に興味・関心を持つ母数であり、その母数を増やすことが志願者の増加に繋がることは、【図表9】の数値の相関関係から

明らかである。今後10年間の18歳人口の減少率が10%以内であることから、資料請求者数の減少を厳しく予測しても現状の2/3（約12,000）以上の数値確保は可能であり、過去の資料請求者数と志願者数・入学者数との相関関係から推計しても、造形学科57名、デザイン学科123名の入学定員（合計180名）は長期的かつ安定して確保できると考えられる。

さらに、「学生募集イベントの動員増加」の取組実績としても、入学者数が大きく低迷していた平成25年度に比べ、令和4年度はイベント総来場者数で約2.1倍の伸びを示している【図表10】。イベント来場者数は本学にアクティブに興味・関心を持つ母数であり、その母数を増やすことが志願者の増加に繋がることは、【図表10】の数値の相関関係から明らかである。今後10年間の18歳人口の減少率が10%以内であることから、イベント総来場者数の減少を厳しく予測しても現状の80%（約1,850）以上の数値確保は可能であり、過去のイベント総来場者数と志願者数・入学者数との相関関係から推計しても、造形学科57名、デザイン学科123名の入学定員（合計180名）は長期的かつ安定して確保できると推察される。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学の主な学生募集地域であり、近年の本学入学者の出身都道府県の7割弱を占める4府県（京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県）に位置する芸術系学部を有する四年制大学（通信制を除く）のうち、類似性の多い5校を競合校として選定し、比較のうえ優位性を分析した。なお、競合校設定の観点のうち、「学力層の類似性」についてはデッサンなどの実技試験を実施している大学を競合校として選定した。

競合校との比較につき、共通して挙げることができる本学の優位性は二つある。まず一つ目は、約千二百年の歴史を持つ真言宗の大本山大覚寺を設立母体とし、大覚寺が始祖と仰ぐ嵯峨天皇ならびに宗祖弘法大師の精神を建学の理念としているというバックボーンである。学園の母体や理念、教育目標が、千年を超える歴史に根差していることは、受験生だけでなく保護者や高等学校進路指導担当教員の信頼度の高さに繋がっている。二つ目は、千年を超える芸術文化の歴史が集積した京都・嵐山という、美術を学ぶうえでの最高レベルの環境である。他府県の大学はもとより、同じ京都市内の芸術系大学と比較しても、本学の歴史的バックボーンと立地環境は、芸術系大学として圧倒的な優位性があると思われる。各競合校ごとの比較、優位性については以下に詳述する。

■京都芸術大学（芸術学部）

同じ京都市内に位置する「所在地の類似性」、同じ芸術系大学という「学校種の類似性」、芸術学の中の美術、デザインを学ぶ学科・コースを有する「学問分野の類似性」がある。「定員規模の類似性」はない。同校は定員規模（令和4年度入学定員975名）が本学の約7倍ある総合芸術大学であり、各学

科・コースの人数規模も本学の数倍ある。ただし、芸術系大学志望者の中には、大規模校よりも個別指導が受けやすく、自身の制作スペースも広い少人数制の大学を志向する層が存在する。国公立芸術系大学の入学定員は100～200名程度の規模が多いことも、「芸術・美術系の学びは少人数」という概念が存在することを意味している。したがって、同校と比較した結果、少人数制教育という観点で本学を選ぶ受験生も一定数存在する。学生納付金に大差はないが、入学者選抜において合格者に奨学金が給付される本学スカラシップ選抜のような奨学生選抜が同校にはないことも受験生の経済的状況によっては優位性となりうる。また、同じ京都市内の立地ではあるが本学の方が大阪府と兵庫県に近く、交通アクセスが良いため、受験生の居住エリアによっては通学が可能か不可能か分かれることも優位性と思われる。

■京都精華大学（メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部）

同じ京都市内に位置する「所在地の類似性」、芸術学の中の美術、デザインを学ぶ学科・コースを有する「学問分野の類似性」がある。同校には芸術系以外の学部もあるため「学校種の類似性」は低い。

「定員規模の類似性」はない。同校は定員規模（令和4年度入学定員1,098名）が本学の約8倍ある総合大学であり、各学科・コースの人数規模も本学の数倍ある。ただし、芸術系大学志望者の中には、大規模校よりも個別指導が受けやすく、自身の制作スペースも広い少人数制の大学を志向する層が存在する。国公立芸術系大学の入学定員は100～200名程度の規模が多いことも「芸術・美術系の学びは少人数」という概念が存在することを意味している。したがって、同校と比較した結果、少人数制教育という観点で本学を選ぶ受験生も一定数存在する。学生納付金に大差はないが、入学者選抜において合格者に奨学金が給付される本学スカラシップ選抜のような奨学生選抜が同校にはないことも受験生の経済的状況によっては優位性となりうる。また、同じ京都市内の立地ではあるが本学の方が大阪府と兵庫県に近く、交通アクセスが良いため、受験生の居住エリアによっては通学が可能か不可能か分かれることも優位性と思われる。

■成安造形大学（芸術学部）

本学と主な学生募集地域（京都府、大阪府、滋賀県）が重複する「所在地の類似性」、同じ芸術系大学という「学校種の類似性」、芸術学の中の美術、デザインを学ぶ学科・コースを有する「学問分野の類似性」、同校は令和5年度入学定員が220名であり「定員規模の類似性」もある。同校に対する大きな優位性としては、立地および交通アクセスがある。特に京都府、大阪府の居住者にとっては滋賀県よりも京都市内の方が通学しやすく、さらに立地環境的にも芸術文化の集積地である京都が芸術・美術を学ぶ環境として適しているというイメージがあるため、受験校選択のうえで有利に働くと思われる。本学の現行入学定員は同校の7割弱で同規模校に近いと思われるが、直近4年間の志願者数・受験者数は本学が上回っている。

■大阪芸術大学（芸術学部）

本学と主な学生募集地域（大阪府、兵庫県）が重複する「所在地の類似性」、同じ芸術系大学という「学校種の類似性」、芸術学の中の美術、デザインを学ぶ学科・コースを有する「学問分野の類似性」がある。「定員規模の類似性」はない。同校は定員規模（令和4年度入学定員1,245名）が本学の約9倍ある総合芸術大学であり、各学科・コースの人数規模も本学の数倍ある。ただし、芸術系大学志望者の中には、大規模校よりも個別指導が受けやすく、自身の制作スペースも広い少人数制の大学を志向する層が存在する。国公立芸術系大学の入学定員は100～200名程度の規模が多いことも、「芸術・美術系の学びは少人数」という概念が存在することを意味している。したがって、同校と比較した結果、少人数制教育という観点で本学を選ぶ受験生も一定数存在する。学生納付金に大差はない。また、同校は大阪府の南端といえる南河内郡に位置しているため、京都府はもとより、大阪府内からの通学時間もエリアによっては本学の方が短く、交通アクセスの良さが同校に対する優位性と思われる。

■神戸芸術工科大学（芸術工学部）

本学と主な学生募集地域（兵庫県）が重複する「所在地の類似性」、同じ芸術系大学という「学校種の類似性」、芸術学の中の美術、デザインを学ぶ学科・コースを有する「学問分野の類似性」がある。「定員規模の類似性」はない。同校は定員規模（令和4年度入学定員400名）が本学の約3倍ある総合芸術大学であり、各学科・コースの人数規模も本学の数倍ある。ただし、芸術系大学志望者の中には、大規模校よりも個別指導が受けやすく、自身の制作スペースも広い少人数制の大学を志向する層が存在する。国公立芸術系大学の入学定員は100～200名程度の規模が多いことも、芸術・美術系の学びは少人数という概念が存在することを意味している。したがって、同校と比較した結果、少人数制教育という観点で本学を選ぶ受験生も一定数存在する。学生納付金や入学者選抜、学生支援において大きな差はないと思われる。同校に対する大きな優位性は立地である。同校は神戸市の北部に位置しているため通学圏内の受験生が兵庫県居住者中心になり、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県と幅広いエリアから通学できる本学とは商圏の広さという観点でいえば大きな差がある。本学の現行入学定員は同校の3割強しかないが、近年の志願者数・受験者数は本学が上回っている。

イ. 競合校の入学志願動向等

全国的な芸術系学部への志願状況の上昇傾向【図表2】もあり、本学同様、競合校の志願者数も順調に推移しており、入学定員未充足の競合校はない。その中にあっても本学は入学定員に比した志願者数が多く、入試倍率は競合校と比べて高水準を保っている。このことから入学定員を増加しても定員充足は長期的かつ安定して可能と考えられる。

【図表 11】 競合校の令和3年度入学志願動向

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
京都芸術大学(芸術学部)	910	7,028	非公表	非公表	981	1.08
京都精華大学(メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部) ※国際学部除く	848	4,814	非公表	1,294	860	1.01
成安造形大学(芸術学部)	200	721	404	373	230	1.15
大阪芸術大学(芸術学部) ※音楽学科除く	1,200	2,430	非公表	非公表	1,399	1.17
神戸芸術工科大学(芸術工学部)	400	686	非公表	非公表	356	0.89

【図表 12】 競合校の令和4年度入学志願動向

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
京都芸術大学(芸術学部)	910	8,033	非公表	非公表	988	1.09
京都精華大学(メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部) ※国際学部除く	848	3,961	非公表	1,294	872	1.03
成安造形大学(芸術学部)	200	691	459	345	221	1.11
大阪芸術大学(芸術学部) ※音楽学科除く	1,200	3,028	非公表	1,970	1,374	1.15
神戸芸術工科大学(芸術工学部)	400	779	720	451	381	0.95

【図表 13】 競合校の令和5年度入学志願動向

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
京都芸術大学(芸術学部)	975	8,871	非公表	非公表	1,044	1.07
京都精華大学(メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部) ※国際学部除く	848	4,329	非公表	1,296	855	1.01
成安造形大学(芸術学部)	220	非公表	非公表	非公表	243	1.10
大阪芸術大学(芸術学部) ※音楽学科除く	1,200	3,256	非公表	非公表	1,414	1.18
神戸芸術工科大学(芸術工学部)	400	860	769	473	459	1.15

ウ. 収容定員を増加する組織の金額設定の理由

芸術系大学は学生の制作環境の整備、施設設備の維持に費用がかかるため、私立大学の場合は大学運営上、他の学問系統の大学に比べ学納金を高くせざるをえない。本学は競合校の中では学納金がやや安

価であるが、大差ないとも言える。競合校との比較のうえで、妥当な設定であると考えられる。

【図表 14】 本学及び競合校の令和 6 年度学納金

	入学金	学費 (授業料、他)	初年度納付金合計
嵯峨美術大学(芸術学部)	200,000 円	1,550,000 円	1,750,000 円
京都芸術大学 (芸術学部美術工芸学科)	250,000 円	1,640,000 円	1,890,000 円
京都精華大学 (芸術学部)	200,000 円	1,600,000 円	1,800,000 円
成安造形大学(芸術学部)※一部領域除く	200,000 円	1,602,500 円	1,802,500 円
大阪芸術大学(芸術学部美術学科)	280,000 円	1,440,000 円	1,720,000 円
神戸芸術工科大学(芸術工学部)	200,000 円	1,600,000 円	1,800,000 円

③ 人材需要に関するアンケート調査等

以下の【図表 15】は、企業が大学および大学に在籍する学生へ向け、オンラインで求人情報をダイレクトに送付できるクラウドサービスであるキャリアタス UC (株式会社ディスコ提供) を通じて本学に送られてきた求人件数 (同一企業からの再送も含む延べ件数) の推移である。この表が示す通り求人件数は毎年増加しており、令和 4 年度 (令和 5 年 3 月卒業生) には 153 名の卒業生に対して 23,399 件の求人が届いた。右肩上がりに増え続ける求人は必ずしもデザイナー、クリエイターといったクリエイティブ系職種の求人だけでなく、その他の職種の求人である。これは、身につけたスキルを直接的に活かすのみならず、美術を学ぶことを通じて培われた企画力、プレゼンテーション力、継続力、忍耐力、スケジュール管理能力といったさまざまな能力がどの業界でも発揮できる力であり、多くの企業がクリエイティブ系職種以外においてもそうした美術大学出身者の能力に期待を寄せ、採用意欲を高めている証であると考えられる。

【図表 15】 キャリタス UC 求人件数の推移

平成 29 年度 (平成 30 年 卒)	平成 30 年度 (平成 31 年 卒)	令和元年度 (令和 2 年卒)	令和 2 年度 (令和 3 年卒)	令和 3 年度 (令和 4 年卒)	令和 4 年度 (令和 5 年卒)
9,947	12,665	13,754	14,835	15,284	23,399

【図表 15】に記載した数値から再送分を除いた実際の求人件数についても表を作成した【資料 1】。さらに、学科ごとの需要を分析するために、クリエイティブ職 (デザイナー、編集・制作職、ゲームクリエイター) を内数として追加した【資料 1】。また、両学科の卒業生が何名就職し、求人とどう関連しているかをみるため、令和 3 年度から令和 5 年度の就職決定者について、学問系統と関係する業界・職種を「教員」、「文化保存・修復」、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術 (アニメ・ゲーム等)」、「その他 (伝統・文化、フラワー、美術教育)」と「学問系統と直接関係しない業界・職種」に分類し表を作成した【資料 2】。学生がキャリアタス UC や大学への直接送付等大学求人経由で内定に至った実績は、【資料 2】

に示したように、令和3年度34.1%、令和4年度37.4%、令和5年度43.2%であるが、残りの約6割の学生は、リクナビ、マイナビ等の就活支援ナビサイト、新卒応援ハローワーク、スカウトサイト、就活エージェント及び企業のホームページを通じた応募で内定を得ている。このことから、実際の求人数は、【資料1】よりも高くなると推測される。

次に、造形学科とデザイン学科の分析を行った。就職において、これらの学科で最も異なる点は、デザイン学科の各領域で教授する専門性が、グラフィックデザイナー、WEBデザイナー、プロダクトデザイナー、ゲームデザイナー、イラストレーター、アニメーター、テキスタイルデザイナーなど、企業の採用対象となっている職種であるのに対し、造形学科の育成対象である画家や彫刻家などの美術家が企業求人として出るとは極めて稀であり、専門性を活かすにはフリーランスとしての形態をとることが一般的であることである。そのため、全国の芸術系大学では毎年、卒業後に作家としてフリーランスで活動する者が一定数おり、本学も同様である。造形学科で就職を希望する学生は、美術大学教育の中で培った想像力、表現力、プレゼンテーション力などの能力を活かし、幅広い業界・職種へ就職する傾向がある。このことから、造形学科は、特定の業界を見てその需要を判断することはできず、全体の求人数から判断することになるが、【資料1】の通り、求人数が増加傾向にあることから、定員増に対応する十分な需要があることが推察できる。また、同様の理由から、教員を目指す学生がデザイン学科より多いことも造形学科の特徴の一つである。なお、少人数ではあるが、日本画・古画の領域においては、専門性を活かすことができる文化財の保存・修復を専門に扱う企業からの求人があり、我が国の「文化芸術推進基本計画」の第2期基本計画重点取組②で示された「文化資源の保存と活用の一層の促進」を担う人材として、文化財の保存・修復業界へ就職する卒業生が存在する。加えて、デザインやデジタルイラストなどの技法を独自に学び、デザイン業界やアニメ・ゲーム業界に就職する造形学科の学生も散見される【資料2】。

一方、デザイン学科でも、卒業後にクリエイターとしてフリーランスで活動する者が一定数いるが、各領域の専門性に合った職種の求人があり、多くの学生が本学で学んだ技術や知識を活かす職業を志望する。ゲーム業界は右肩上がりの成長産業であり、国内市場で令和4年度現在2兆2559億円、世界市場で26兆8005億円の規模となっている【資料3】。同様にアニメ業界も令和2年度に2兆9277億円と過去最高を記録し、市場規模の拡大とともに人材需要が高まっている【資料4】。また、紙の出版物が減少傾向にあるものの、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌のマスコミ四媒体全体の広告費を、令和3年にインターネット広告単体で超えるなど、WEBにおけるグラフィック表現やイラストレーションの需要は年々高まっており【資料5】、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術（アニメ・ゲーム等）」業界・職種への就職者数も増加傾向にある【資料2】。

このようなことから、前述の大学求人キャリアタスUCにおける令和5年度と平成29年度の求人数の伸び率を比較すると、【資料1】のとおり、デザイナー職が2.16倍、ゲームクリエイター職が2.21倍、アニメ制作を含む制作・編集職が1.95倍となっており、明らかなニーズの高さが確認できる。

以上の分析結果から、定員増に対する両学科の社会における人材需要は十分にあると考える。

(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由

■入学定員

現行の入学定員(135人)設定となった平成30年度以降6年間の状況は、入学定員充足率が1.00倍を超え続け、志願者数は6年間で約1.5倍に増加している。合格者数・入学者数はほぼ横ばいであるため、不合格者数が年々増加し(令和5年度不合格者数628名)、門戸が狭くなっている。本学のアドミッションポリシーを満たす受験生の受入れ要請に応えきれず、本学への入学が叶わなかった受験生は、やむなく類似領域の学科を設置する他大学への進学を選択せざるを得ない状況が続いている。全国的な芸術系学部への志願状況【図表2】と受入れ側の芸術・美術系大学の収容定員との需給バランスを鑑みると、本学の志願者・受験者は今後も高い水準で推移すると思われることから、入学定員を現行の135人から180人に変更し、年々増加している本学の志望者に対し、学びの機会を適正に確保したいと考えるものである。

学生確保の見通し等を記載した書類

資料目次

別紙 1	収容定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況	P. 2
別紙 2	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）	P. 3
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	P. 5
資料 1	再送を含めない実求人件数の推移	P. 6
資料 2	学科別就職実績の推移	P. 7
資料 3	ゲーム市場の推移（国内・世界） （株式会社角川アスキー総合研究所 ファミ通ゲーム白書 2023 より株式会 社学情による集計）	P. 8
資料 4	アニメ産業市場の推移 （一般社団法人日本動画協会 アニメ産業レポート 2023 サマリー版）抜粋	P. 9
資料 5	広告費の推移、出版物の指定販売金額の推移 （2024 年 2 月 27 日付時事通信ニュース抜粋） （公益社団法人全国出版協会ホームページ抜粋）	P. 10

収容定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	京都府	8,641人	24.4%
2	大阪府	6,849人	19.4%
3	滋賀県	3,106人	8.8%
4	兵庫県	2,690人	7.6%
5	奈良県	1,542人	4.4%
	全 体	35,395人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○収容定員を増加する組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	京都府	98.88%	101.59%	99.93%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○収容定員を増加する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	芸術系学部(大学)	104.78%	105.50%	105.32%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）
 大学学部学科等名：嵯峨美術大学芸術学部造形学科

別紙2-1

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R1年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	18人	18人	20人	20人	20人	19人	
	延べ人数	志願者数	33人	60人	61人	68人	53人	55人
		受験者数	33人	60人	58人	63人	43人	51人
		合格者数	26人	28人	31人	30人	13人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	3人	0人	3人	3人	3人
	実人数	志願者数	33人	60人	61人	68人	53人	55人
		受験者数	33人	60人	58人	63人	43人	51人
		合格者数	26人	28人	31人	30人	13人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	3人	0人	3人	3人	3人
	入学者数	21人	25人	31人	27人	10人	23人	
	学校推薦型選抜	募集人数	4人	4人	0人	0人	0人	2人
延べ人数		志願者数	17人	14人	13人	20人	24人	18人
		受験者数	17人	14人	13人	20人	24人	18人
		合格者数	17人	14人	13人	20人	24人	17.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	1人	1人	2人	1.2
実人数		志願者数	17人	14人	13人	20人	24人	17.6
		受験者数	17人	14人	13人	20人	24人	17.6
		合格者数	17人	14人	13人	20人	24人	17.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	1人	1人	2人	1.2
入学者数		15人	14人	12人	19人	22人	16.4	
一般選抜		募集人数	7人	7人	5人	5人	5人	5.8
	延べ人数	志願者数	25人	40人	35人	53人	38人	38.2
		受験者数	24人	39人	34人	50人	38人	37
		合格者数	8人	10人	12人	7人	15人	10.4
		うち追加合格者数	4人	5人	9人	2人	11人	6.2
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	25人	40人	35人	53人	38人	38.2
		受験者数	24人	39人	34人	50人	38人	37
		合格者数	8人	10人	12人	7人	15人	10.4
		うち追加合格者数	4人	5人	9人	2人	11人	6.2
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	入学者数	1人	3人	3人	3人	3人	2.6	
	共通テスト利用入試	募集人数	2人	2人	2人	2人	2人	2
延べ人数		志願者数	18人	13人	9人	28人	14人	16.4
		受験者数	18人	13人	9人	28人	14人	16.4
		合格者数	1人	1人	3人	2人	1人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	11人	6人	4人	11人	7人	7.8
		受験者数	11人	6人	4人	11人	7人	7.8
		合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	0人	1人	1人	0人	0.6	
その他の特別選抜		募集人数	14人	14人	14人	14人	14人	14
	延べ人数	志願者数	126人	154人	175人	243人	201人	179.8
		受験者数	124人	154人	172人	243人	196人	177.8
		合格者数	27人	33人	30人	37人	45人	34.4
		うち追加合格者数	0人	7人	13人	9人	7人	7.2
		辞退者数	3人	5人	7人	7人	7人	5.8
	実人数	志願者数	126人	154人	175人	243人	201人	179.8
		受験者数	124人	154人	172人	243人	196人	177.8
		合格者数	27人	33人	30人	37人	45人	34.4
		うち追加合格者数	0人	7人	13人	9人	7人	7.2
		辞退者数	3人	5人	7人	7人	7人	5.8
	入学者数	16人	15人	7人	13人	13人	12.8	
	合計	募集人数	45人	45人	41人	41人	41人	43人
延べ人数		志願者数	219人	281人	293人	412人	330人	307人
		受験者数	216人	280人	286人	404人	315人	300人
		合格者数	79人	86人	89人	96人	98人	90人
		うち追加合格者数	4人	12人	22人	11人	18人	13人
		辞退者数	11人	8人	8人	11人	12人	10人
実人数		志願者数	212人	274人	288人	395人	323人	298人
		受験者数	209人	273人	281人	387人	308人	292人
		合格者数	79人	85人	87人	94人	97人	88人
		うち追加合格者数	4人	12人	22人	11人	18人	13人
		辞退者数	11人	8人	8人	11人	12人	10人
入学者数		54人	57人	54人	63人	48人	55人	

3. 入学定員充足率

	R1年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	45人	45人	45人	45人	45人	45
入学定員充足率	1.20	1.27	1.20	1.40	1.07	1.23
歩留率	0.65	0.59	0.50	0.60	0.42	0.55

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-2

大学学部学科等名：嵯峨美術大学芸術学部デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R1年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	36人	36人	41人	41人	41人	39人	
	延べ人数	志願者数	140人	278人	190人	162人	172人	188人
		受験者数	136人	269人	181人	150人	153人	178人
		合格者数	65人	58人	53人	43人	27人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	3人	0人	1人	2人
	実人数	志願者数	140人	278人	190人	162人	172人	188人
		受験者数	136人	269人	181人	150人	153人	178人
		合格者数	65人	58人	53人	43人	27人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	3人	0人	1人	2人
	入学者数	62人	57人	50人	43人	26人	48人	
	学校推薦型選抜	募集人数	9人	9人	0人	0人	0人	4人
延べ人数		志願者数	39人	43人	47人	43人	50人	44人
		受験者数	39人	43人	47人	43人	50人	44人
		合格者数	39人	43人	47人	43人	50人	44.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人	0.8
実人数		志願者数	39人	43人	47人	43人	50人	44.4
		受験者数	39人	43人	47人	43人	50人	44.4
		合格者数	39人	43人	47人	43人	50人	44.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人	0.8
入学者数		39人	42人	47人	41人	49人	43.6	
一般選抜		募集人数	14人	14人	9人	9人	9人	11
	延べ人数	志願者数	46人	69人	54人	70人	66人	61
		受験者数	45人	65人	53人	67人	64人	58.8
		合格者数	8人	9人	9人	11人	13人	10
		うち追加合格者数	1人	5人	6人	7人	8人	5.4
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	1人	0.4
	実人数	志願者数	46人	69人	54人	70人	66人	61
		受験者数	45人	65人	53人	67人	64人	58.8
		合格者数	8人	9人	9人	11人	13人	10
		うち追加合格者数	1人	5人	6人	7人	8人	5.4
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	1人	0.4
	入学者数	4人	3人	4人	4人	5人	4	
	共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5
延べ人数		志願者数	46人	66人	9人	57人	32人	42
		受験者数	46人	66人	9人	57人	32人	42
		合格者数	4人	4人	4人	5人	5人	4.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	21人	23人	2人	10人	11人	13.4
		受験者数	21人	23人	2人	10人	11人	13.4
		合格者数	2人	1人	2人	0人	4人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	1人	0人	2人	4人	1.6	
その他の特別選抜		募集人数	27人	27人	27人	27人	27人	27
	延べ人数	志願者数	137人	188人	240人	237人	238人	208
		受験者数	134人	185人	231人	230人	229人	201.8
		合格者数	14人	27人	34人	28人	22人	25
		うち追加合格者数	5人	7人	11人	7人	4人	6.8
		辞退者数	1人	3人	4人	5人	4人	3.4
	実人数	志願者数	137人	188人	240人	237人	238人	208
		受験者数	134人	185人	231人	230人	229人	201.8
		合格者数	14人	27人	34人	28人	22人	25
		うち追加合格者数	5人	7人	11人	7人	4人	6.8
		辞退者数	1人	3人	4人	5人	4人	3.4
	入学者数	9人	8人	8人	9人	10人	8.8	
	合計	募集人数	91人	91人	82人	82人	82人	86人
延べ人数		志願者数	408人	644人	540人	569人	558人	544人
		受験者数	400人	628人	521人	547人	528人	525人
		合格者数	130人	141人	147人	130人	117人	133人
		うち追加合格者数	6人	12人	17人	14人	12人	12人
		辞退者数	4人	5人	8人	7人	7人	6人
実人数		志願者数	383人	601人	533人	522人	537人	515人
		受験者数	375人	585人	514人	500人	507人	496人
		合格者数	128人	138人	145人	125人	116人	130人
		うち追加合格者数	6人	12人	17人	14人	12人	12人
		辞退者数	4人	5人	8人	7人	7人	6人
入学者数		115人	111人	109人	99人	94人	106人	

3. 入学定員充足率

	R1年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90
入学定員充足率	1.28	1.23	1.21	1.10	1.04	1.17
歩留率	0.86	0.74	0.67	0.71	0.73	0.74

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：嵯峨美術大学芸術学部の学生募集イベント

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1539人	2049人	<p>①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、体験授業、入試説明、施設案内等を実施。 R4年度入試対象（R3年開催）：計16回開催 (2/7. 3/21. 4/25. 5/16. 5/30. 6/13. 6/26. 7/10. 7/25. 8/8. 8/22. 9/4. 9/25. 10/24. 12/12. 12/18) R5年度入試対象（R4年開催）：計16回開催 (2/6. 3/20. 4/24. 5/15. 5/29. 6/12. 6/25. 7/9. 7/24. 8/7. 8/21. 9/3. 9/24. 10/23. 12/11. 12/17)</p> <p>②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 入学率が10%台なのは受験倍率が高い(R5年度3.9倍、R4年度4.2倍)からであり、イベント来場者の約4割が受験につながっている。入学定員を180人に増加しても入学定員を大きく上回る受験者が学生募集イベント経由で見込まれるため、入学者数は定員を満たすことが可能と考える。</p> <p>③ (b) の数値は学生募集イベント来場者全員から取得したアンケートにより受験対象学年の人数を抽出</p>
うち受験対象者数(b)	775人	818人	
うち受験者数(c)	324人	311人	
うち入学者数(d)	136人	108人	
(受験率 c/b)	41.8%	38.0%	
(入学率 d/b)	17.5%	13.2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：嵯峨美術大学の大学案内の配布（郵送他）

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	12762人	12711人	<p>①取組概要 資料請求者（受験検討者）に大学案内を無料で郵送している。 R4年度入試対象（R3年1月～R4年2月郵送等で配布） R5年度入試対象（R4年1月～R5年2月郵送等で配布）</p> <p>②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 資料請求という最も浅く広い接触ゆえに受験率や入学率は当然低くなるが、資料請求を初接触として受験につながった人数が入学定員を大幅に超過している。入学定員を180人に増加しても入学定員を大きく上回る受験者が資料請求経由で見込まれるため、上述の学生募集イベントによる接触と併せ、入学者数は定員を満たすことが可能と考える。</p> <p>③ (b) の数値は資料請求時に取得した情報により受験対象学年の人数を抽出</p>
うち受験対象者数(b)	7871人	8727人	
うち受験者数(c)	330人	340人	
うち入学者数(d)	99人	89人	
(受験率 c/b)	4.2%	3.9%	
(入学率 d/b)	1.3%	1.0%	

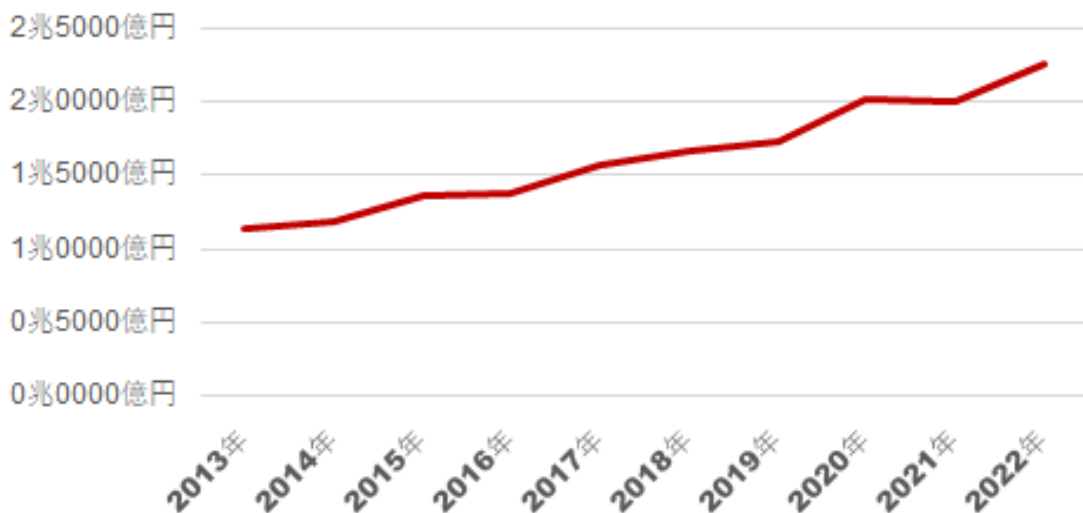
	平成29年度 (平成30年卒)	平成30年度 (平成31年卒)	令和元年度 (令和2年卒)	令和2年度 (令和3年卒)	令和3年度 (令和4年卒)	令和4年度 (令和5年卒)	令和5年度 (令和6年卒)	求人件数の伸び率 (令和5年度と平成29年度比較)
芸術学部全体	4,165	5,707	6,720	7,075	7,025	8,377	10,244	2.46
(内) デザイナー	358	476	521	571	521	655	773	2.16
(内) 編集・制作	332	403	465	478	413	552	649	1.95
(内) ゲームクリエイター	94	109	130	122	142	172	208	2.21

学科別就職実績の推移

資料2

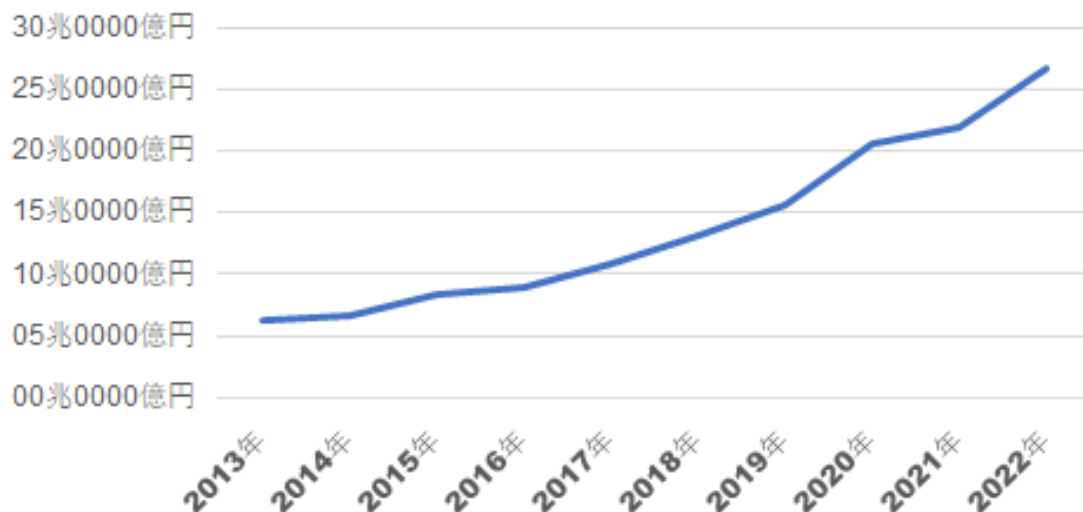
	令和3年度 (令和4年卒)		令和4年度 (令和5年卒)		令和5年度 (令和6年卒)	
	造形学科	デザイン学科	造形学科	デザイン学科	造形学科	デザイン学科
卒業者数	42	100	41	112	53	111
就職希望者数	30	76	29	77	34	94
就職者数	26	62	27	64	30	81
進学者数	7	1	2	2	7	1
創作活動者等	5	11	7	21	7	10
就職率(就職者数/就職希望者数)	86.7%	81.6%	93.1%	83.1%	88.2%	86.2%
学問系統と関係する業界・職種(a)	13	38	16	38	15	57
(内) 教員	5	0	4	1	3	2
(内) 文化保存・修復	0	0	1	0	2	0
(内) 広告デザイン・印刷	1	17	2	17	2	24
(内) メディア芸術(アニメ・ゲーム等)	1	7	3	10	1	13
(内) その他(伝統・文化、フラワー、美術教育)	6	14	6	10	7	18
学問系統と直接関係しない業界・職種(b)	13	24	11	26	15	24
(a+b)計	26	62	27	64	30	81
		(20)		(23)		(36)
		39.2%		42.6%		50.0%
		(1)		(4)		(5)
		20.0%		80.0%		100%
		(0)		(0)		(0)
		0%		0%		0%
		(6)		(7)		(10)
		33.3%		36.8%		38.5%
		(4)		(6)		(8)
		50.0%		46.2%		57.1%
		(9)		(6)		(13)
		45.0%		37.5%		52.0%
		(10)		(11)		(12)
		27.0%		29.7%		30.8%
		(30)		(34)		(48)
		34.1%		37.4%		43.2%

ゲーム 国内市場



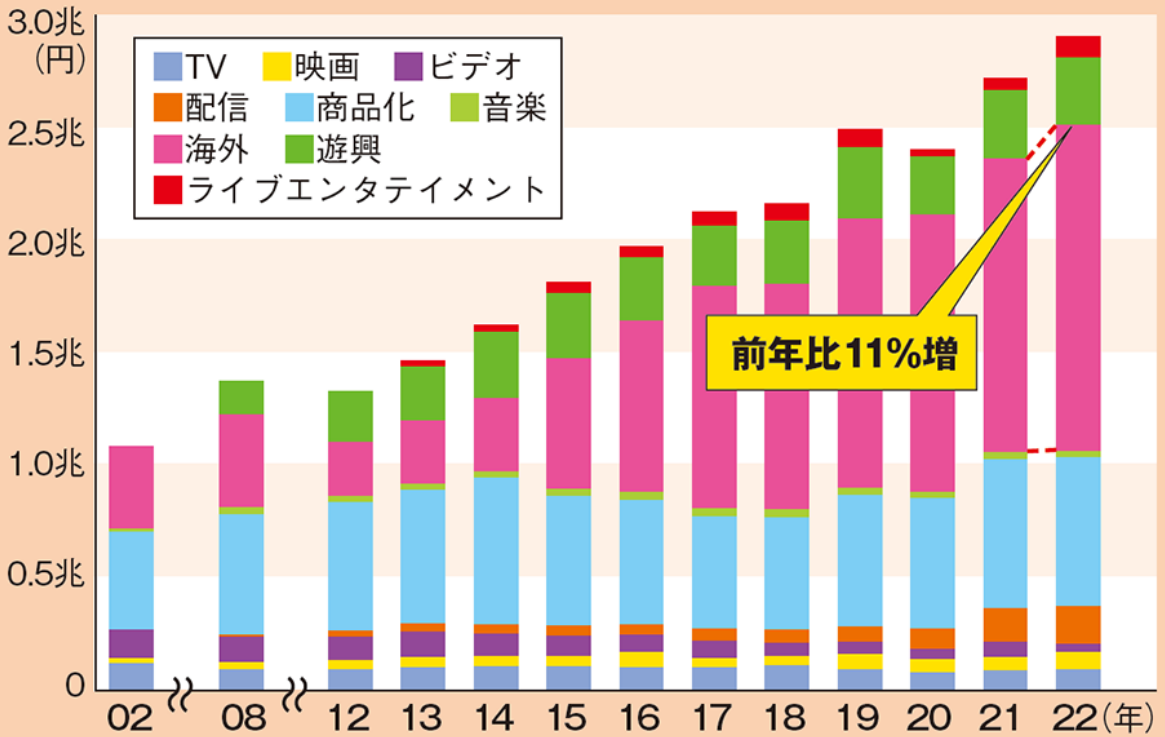
ゲームの国内市場は、2014年の1兆1925億円から、2022年の2兆2559億円へと、直近の10年間で197%、約2倍に拡大している。また、常に右肩上がりの拡大を続けている（2021年を除く）。

ゲーム 世界市場

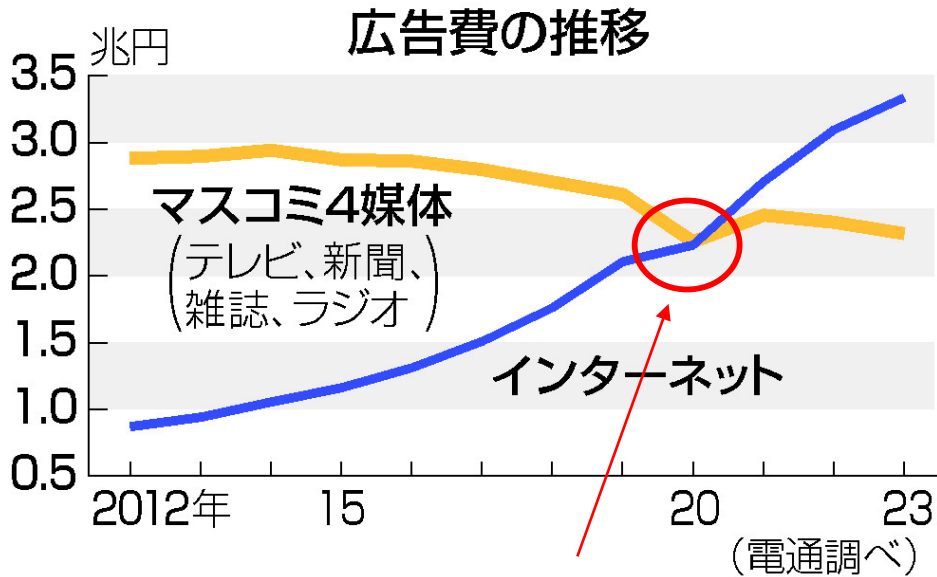


ゲームの世界市場は、2013年の6兆3269億円から、2022年の26兆8005億円へと、直近の10年間で424%と、極めて大幅に拡大している。また、常に右肩上がりの拡大を続けている。

図1 アニメ産業市場(ユーザー市場推定売上/広義のアニメ市場)の推移

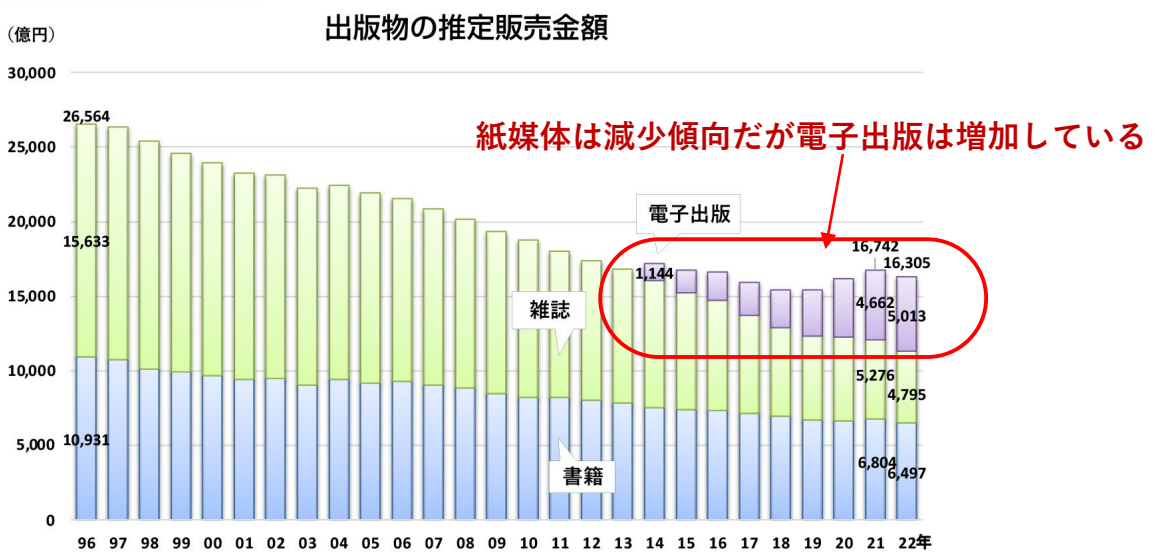


(一般社団法人日本動画協会 アニメ産業レポート 2023 サマリー版) 抜粋

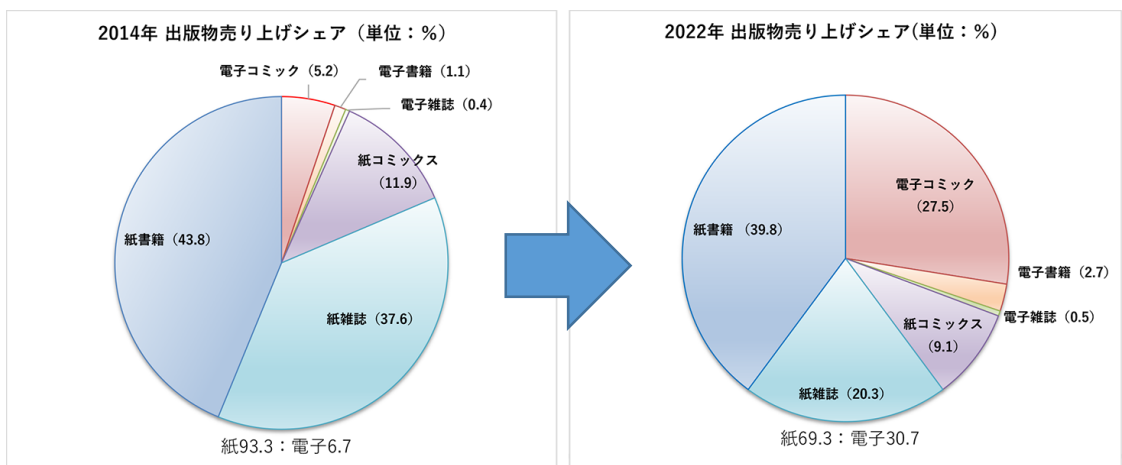


インターネット広告がマスコミ4媒体を逆転

出典：電通 日本の広告費



出典：『出版指標年報2023年版』



教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ササキ マサコ 佐々木 正子 <平成31年4月>		学士 (芸術)		嵯峨美術大学 学長 (平成31年4月～令和7年3月)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 芸術学部 造形学科、デザイン学科

1. 造形学科及びデザイン学科の人材需要について、「学生確保の見通し等を記載した書類（本文）」p.16の「③人材需要に関するアンケート調査等」において、求人件数の推移を示しているが、件数は同一企業からの再送も含めた延べ件数であるため、具体的な需要人数が判然としないことに加えて、これらの求人に対して、両学科の卒業生が何名就職しているのか示されておらず、両学科の養成する人材がこれらの求人に対して真に合致するものなのか判然としないことから、示された求人件数の推移が両学科の収容定員の増加に対する社会の要請を示す客観的なデータとして妥当であるとは判断することができない。このため、求人件数から具体的な需要人数を明らかにするとともに、明らかになった需要人数に対して、両学科の卒業生が何名就職しているのか明示することにより、両学科の収容定員の増加が社会の要請を踏まえたものであることについて、改めて客観的な根拠と適切な分析に基づき、明確に説明すること。（是正事項）・・・P2

2. 造形学科及びデザイン学科の施設・設備について、「学則の変更の趣旨等を記載した書類（本文）」p.4の「（4）大学全体の施設・設備の変更内容について」において、本学の施設・設備は、平成27年度以前の収容定員778名に対応した施設であり、収容定員の増加に対応できることを説明しているが、平成27年度以前からの教育課程等の変更の有無については説明されておらず、当該説明のみをもって、収容定員の増加に対して、両学科の施設・設備が教育に支障なく適切に整備されているとは判断することができない。このため、造形学科及びデザイン学科の施設・設備が教育内容に即して十分であることについて、明確かつ具体的に説明することにより、収容定員増加後の教育研究に支障がないことについて明らかにすること。（是正事項）・・・P13

(是正事項) 芸術学部 造形学科、デザイン学科

1. 造形学科及びデザイン学科の人材需要について、「学生確保の見通し等を記載した書類(本文)」p.16の「③人材需要に関するアンケート調査等」において、求人件数の推移を示しているが、件数は同一企業からの再送も含めた延べ件数であるため、具体的な需要人数が判然としないことに加えて、これらの求人に対して、両学科の卒業生が何名就職しているのか示されておらず、両学科の養成する人材がこれらの求人に対して真に合致するものなのか判然としないことから、示された求人件数の推移が両学科の収容定員の増加に対する社会の要請を示す客観的なデータとして妥当であるとは判断することができない。このため、求人件数から具体的な需要人数を明らかにするとともに、明らかになった需要人数に対して、両学科の卒業生が何名就職しているのか明示することにより、両学科の収容定員の増加が社会の要請を踏まえたものであることについて、改めて客観的な根拠と適切な分析に基づき、明確に説明すること。

(対応) 造形学科及びデザイン学科の人材需要について、求人件数から具体的な需要人数を明らかにするとともに、明らかになった需要人数に対して、両学科の卒業生が何名就職しているのか明示することにより、両学科の収容定員の増加が社会の要請を踏まえたものであることについて、以下の通り説明する。

「③人材需要に関するアンケート調査等」の項目で示したキャリアタスUCの求人件数については、同一企業からの再送も含めた延べ件数であることを述べたが、開発・運営を行う(株)キャリアタス(旧名称: (株)ディスコ)の協力のもと、再送分を除いた実際の求人件数で表を作成し直した。さらに、学科ごとの需要を分析するために、クリエイティブ職(デザイナー、編集・制作職、ゲームクリエイター)を内数として追加した【資料1】。また、両学科の卒業生が何名就職し、求人とどう関連しているかをみるため、令和3年度から令和5年度の就職決定者について、学問系統と関係する業界・職種を「教員」、「文化保存・修復」、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術(アニメ・ゲーム等)」、「その他(伝統・文化、フラワー、美術教育)」と「学問系統と直接関係しない業界・職種」に分類し表を作成した【資料2】。学生がキャリアタスUCや大学への直接送付等大学求人経由で内定に至った実績は、【資料2】に示したように、令和3年度34.1%、令和4年度37.4%、令和5年度43.2%であるが、残りの約6割の学生は、リクナビ、マイナビ等の就活支援ナビサイト、新卒応援ハローワーク、スカウトサイト、就活エージェント及び企業のホームページを通じた応募で内定を得ている。このことから、実際の求人件数は、【資料1】よりも高くなると推測される。

次に、造形学科とデザイン学科の分析を行った。就職において、これらの学科で最も異なる点は、デザイン学科の各領域で教授する専門性が、グラフィックデザイナー、WEBデザイナー、プロダクトデザイナー、ゲームデザイナー、イラストレーター、アニメーター、テキスタイルデザイナーなど、企業の採用対象となっている職種であるのに対し、造形学科の育成対象である画家や彫刻家などの美術家が企業求人として出るとは極めて稀であり、専門性を活かすにはフリーランスとしての形態をとることが一般的であ

ることである。そのため、全国の芸術系大学では毎年、卒業後に作家としてフリーランスで活動する者が一定数おり、本学も同様である。造形学科で就職を希望する学生は、美術大学教育の中で培った想像力、表現力、プレゼンテーション力などの能力を活かし、幅広い業界・職種へ就職する傾向がある。このことから、造形学科は、特定の業界を見てその需要を判断することはできず、全体の求人件数から判断することになるが、【資料1】の通り、求人数が増加傾向にあることから、定員増に対応する十分な需要があることが推察できる。また、同様の理由から、教員を目指す学生がデザイン学科より多いことも造形学科の特徴の一つである。なお、少人数ではあるが、日本画・古画の領域においては、専門性を活かすことができる文化財の保存・修復を専門に扱う企業からの求人があり、我が国の「文化芸術推進基本計画」の第2期基本計画重点取組②で示された「文化資源の保存と活用の一層の促進」を担う人材として、文化財の保存・修復業界へ就職する卒業生が存在する。加えて、デザインやデジタルイラストなどの技法を独自に学び、デザイン業界やアニメ・ゲーム業界に就職する造形学科の学生も散見される【資料2】。

一方、デザイン学科でも、卒業後にクリエイターとしてフリーランスで活動する者が一定数いるが、各領域の専門性に合った職種の求人があり、多くの学生が本学で学んだ技術や知識を活かす職業を志望する。ゲーム業界は右肩上がりの成長産業であり、国内市場で令和4年度現在2兆2559億円、世界市場で26兆8005億円の規模となっている【資料3】。同様にアニメ業界も令和2年度に2兆9277億円と過去最高を記録し、市場規模の拡大とともに人材需要が高まっている【資料4】。また、紙の出版物が減少傾向にあるものの、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌のマスコミ四媒体全体の広告費を、令和3年にインターネット広告単体で超えるなど、WEBにおけるグラフィック表現やイラストレーションの需要は年々高まっており【資料5】、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術（アニメ・ゲーム等）」業界・職種への就職者数も増加傾向にある【資料2】。

このようなことから、前述の大学求人キャリアタスUCにおける令和5年度と平成29年度の求人件数の伸び率を比較すると、【資料1】のとおり、デザイナー職が2.16倍、ゲームクリエイター職が2.21倍、アニメ制作を含む制作・編集職が1.95倍となっており、明らかなニーズの高さが確認できる。

以上の分析結果から、定員増に対する両学科の社会における人材需要は十分にあると考える。

以上の説明により、以下の通り「学生確保の見通し等を記載した書類（本文）」を修正し、「学生確保の見通し等を記載した書類（資料）」を追加する。

新	旧
<p>【図表 15】に記載した数値から再送分を除いた実際の求人件数についても表を作成した【資料 1】。さらに、学科ごとの需要を分析するために、クリエイティブ職（デザイナー、編集・制作職、ゲームクリエイター）を内数として追加した【資料 1】。</p> <p>また、両学科の卒業生が何名就職し、求人とどう関連しているかをみるため、令和 3 年度から令和 5 年度の就職決定者について、学問系統と関係する業界・職種を「教員」、「文化保存・修復」、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術（アニメ・ゲーム等）」、「その他（伝統・文化、フラワー、美術教育）」と「学問系統と直接関係しない業界・職種」に分類し表を作成した【資料 2】。学生がキャリアス UC や大学への直接送付等大学求人経由で内定に至った実績は、【資料 2】に示したように、令和 3 年度 34.1%、令和 4 年度 37.4%、令和 5 年度 43.2%であるが、残りの約 6 割の学生は、リクナビ、マイナビ等の就活支援ナビサイト、新卒応援ハローワーク、スカウトサイト、就活エージェント及び企業のホームページを通じた応募で内定を得ている。このことから、実際の求人件数は、【資料 1】よりも高くなると推測される。</p> <p>次に、造形学科とデザイン学科の分析を行った。就職において、これらの学科で最も異なる点は、デザイン学科の各領域で教授する専門性が、グラフィックデザイナー、WEB デザイナー、プロダクトデザイナー、ゲームデザイナー、イラストレーター、アニメーター、テキスタイルデザイナーなど、企業の採用対象となっている職種であるのに対し、造形学科の育成対象である画</p>	<p>(追加)</p>

家や彫刻家などの美術家が企業求人として出るとは極めて稀であり、専門性を活かすにはフリーランスとしての形態をとることが一般的であることである。そのため、全国の芸術系大学では毎年、卒業後に作家としてフリーランスで活動する者が一定数おり、本学も同様である。造形学科で就職を希望する学生は、美術大学教育の中で培った想像力、表現力、プレゼンテーション力などの能力を活かし、幅広い業界・職種へ就職する傾向がある。このことから、造形学科は、特定の業界を見てその需要を判断することはできず、全体の求人数から判断することになるが、【資料1】の通り、求人数が増加傾向にあることから、定員増に対応する十分な需要があることが推察できる。また、同様の理由から、教員を目指す学生がデザイン学科より多いことも造形学科の特徴の一つである。なお、少人数ではあるが、日本画・古画の領域においては、専門性を活かすことができる文化財の保存・修復を専門に扱う企業からの求人があり、我が国の「文化芸術推進基本計画」の第2期基本計画重点取組②で示された「文化資源の保存と活用の一層の促進」を担う人材として、文化財の保存・修復業界へ就職する卒業生が存在する。加えて、デザインやデジタルイラストなどの技法を独自に学び、デザイン業界やアニメ・ゲーム業界に就職する造形学科の学生も散見される【資料2】。

一方、デザイン学科でも、卒業後にクリエイターとしてフリーランスで活動する者が一定数いるが、各領域の専門性に応じた職種の求人があり、多くの学生が本学で学んだ技術や知識を活かす職業を志望する。ゲーム業界は右肩上がりの成長産業であり、国内市場で令和4年度現在2兆2559億円、世界市場で26兆8005億円の規模と

<p>なっている【資料3】。同様にアニメ業界も令和2年度に2兆9277億円と過去最高を記録し、市場規模の拡大とともに人材需要が高まっている【資料4】。また、紙の出版物が減少傾向にあるものの、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌のマスコミ四媒体全体の広告費を、令和3年にインターネット広告単体で超えるなど、WEBにおけるグラフィック表現やイラストレーションの需要は年々高まっており【資料5】、「広告デザイン・印刷」、「メディア芸術（アニメ・ゲーム等）」業界・職種への就職者数も増加傾向にある【資料2】。</p> <p>このようなことから、前述の大学求人キャリアタスUCにおける令和5年度と平成29年度の求人件数の伸び率を比較すると、【資料1】のとおり、デザイナー職が2.16倍、ゲームクリエイター職が2.21倍、アニメ制作を含む制作・編集職が1.95倍となっており、明らかなニーズの高さが確認できる。</p> <p>以上の分析結果から、定員増に対する両学科の社会における人材需要は十分にあると考える。</p>	
--	--

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 目次

新	旧
<p>(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由 P18</p>	<p>(省略) (4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由 P16</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 資料

新	旧
資料1～資料5 (次ページ以降に添付)	(追加)

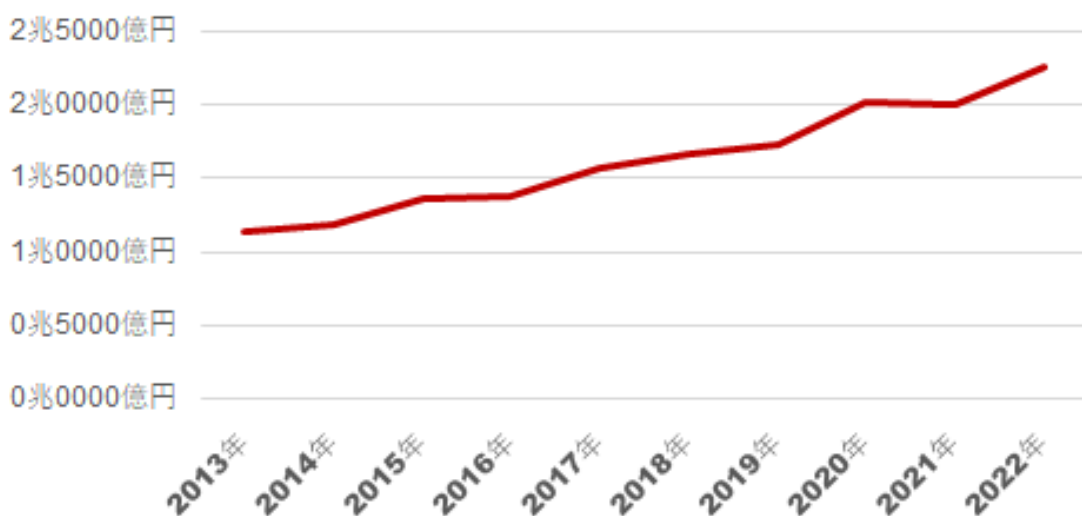
	平成29年度 (平成30年卒)	平成30年度 (平成31年卒)	令和元年度 (令和2年卒)	令和2年度 (令和3年卒)	令和3年度 (令和4年卒)	令和4年度 (令和5年卒)	令和5年度 (令和6年卒)	求人件数の伸び率 (令和5年度と平成29年度比較)
芸術学部全体	4,165	5,707	6,720	7,075	7,025	8,377	10,244	2.46
(内) デザイナー	358	476	521	571	521	655	773	2.16
(内) 編集・制作	332	403	465	478	413	552	649	1.95
(内) ゲームクリエイター	94	109	130	122	142	172	208	2.21

学科別就職実績の推移

資料2

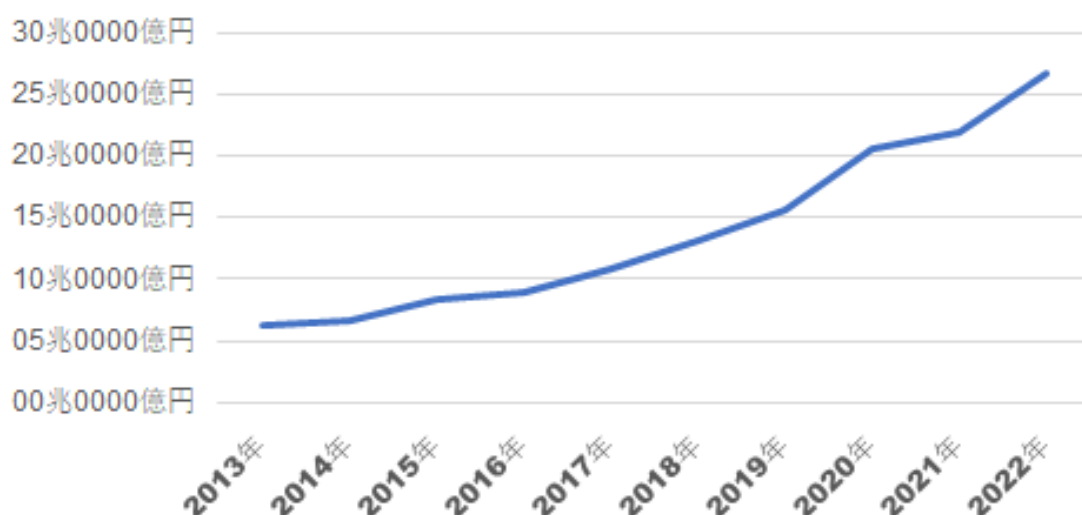
	令和3年度 (令和4年卒)		令和4年度 (令和5年卒)		令和5年度 (令和6年卒)	
	造形学科	デザイン学科	造形学科	デザイン学科	造形学科	デザイン学科
卒業者数	42	100	41	112	53	111
就職希望者数	30	76	29	77	34	94
就職者数	26	62	27	64	30	81
進学者数	7	1	2	2	7	1
創作活動者等	5	11	7	21	7	10
就職率(就職者数/就職希望者数)	86.7%	81.6%	93.1%	83.1%	88.2%	86.2%
学問系統と関係する業界・職種(a)	13	38	16	38	15	57
(内) 教員	5	0	4	1	3	2
(内) 文化保存・修復	0	0	1	0	2	0
(内) 広告デザイン・印刷	1	17	2	17	2	24
(内) メディア芸術(アニメ・ゲーム等)	1	7	3	10	1	13
(内) その他(伝統・文化、フラワー、美術教育)	6	14	6	10	7	18
学問系統と直接関係しない業界・職種(b)	13	24	11	26	15	24
(a+b)計	26	62	27	64	30	81
		(20)		(23)		(36)
		(1)		(4)		(5)
		(0)		(0)		(0)
		(6)		(7)		(10)
		(4)		(6)		(8)
		(9)		(6)		(13)
		(10)		(11)		(12)
		(30)		(34)		(48)
		34.1%		37.4%		43.2%
		39.2%		42.6%		50.0%
		20.0%		80.0%		100%
		0%		0%		0%
		33.3%		36.8%		38.5%
		50.0%		46.2%		57.1%
		45.0%		37.5%		52.0%
		27.0%		29.7%		30.8%

ゲーム 国内市場

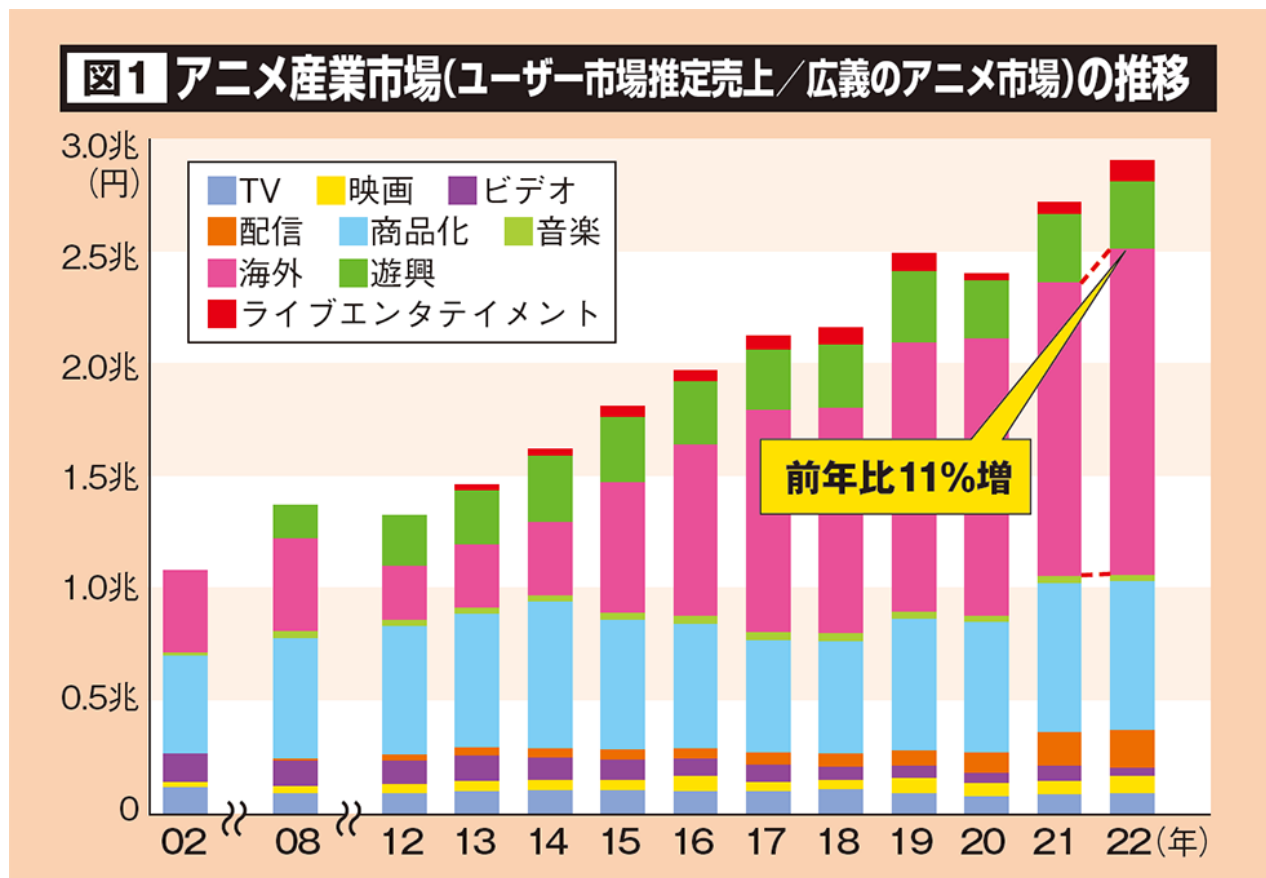


ゲームの国内市場は、2014年の1兆1925億円から、2022年の2兆2559億円へと、直近の10年間で197%、約2倍に拡大している。また、常に右肩上がりの拡大を続けている（2021年を除く）。

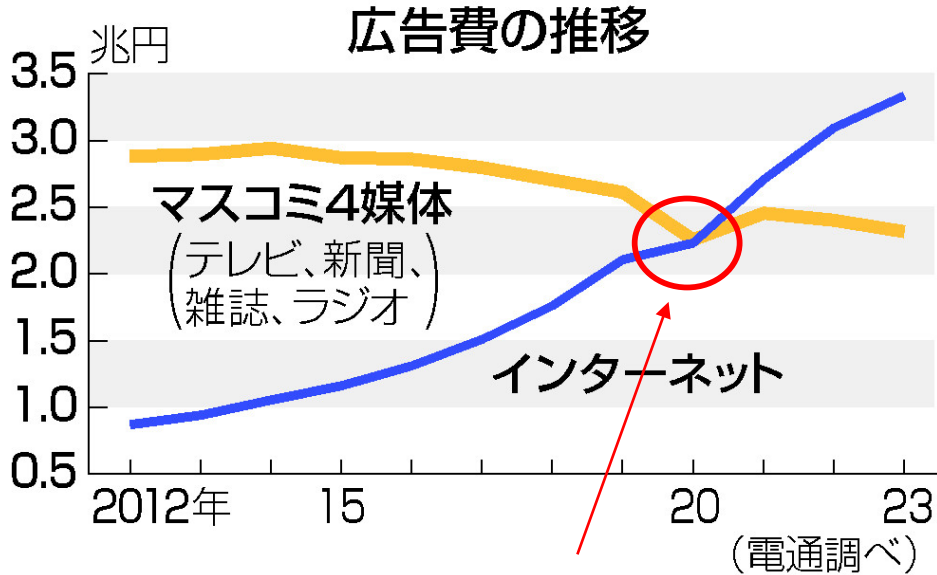
ゲーム 世界市場



ゲームの世界市場は、2013年の6兆3269億円から、2022年の26兆8005億円へと、直近の10年間で424%と、極めて大幅に拡大している。また、常に右肩上がりの拡大を続けている。

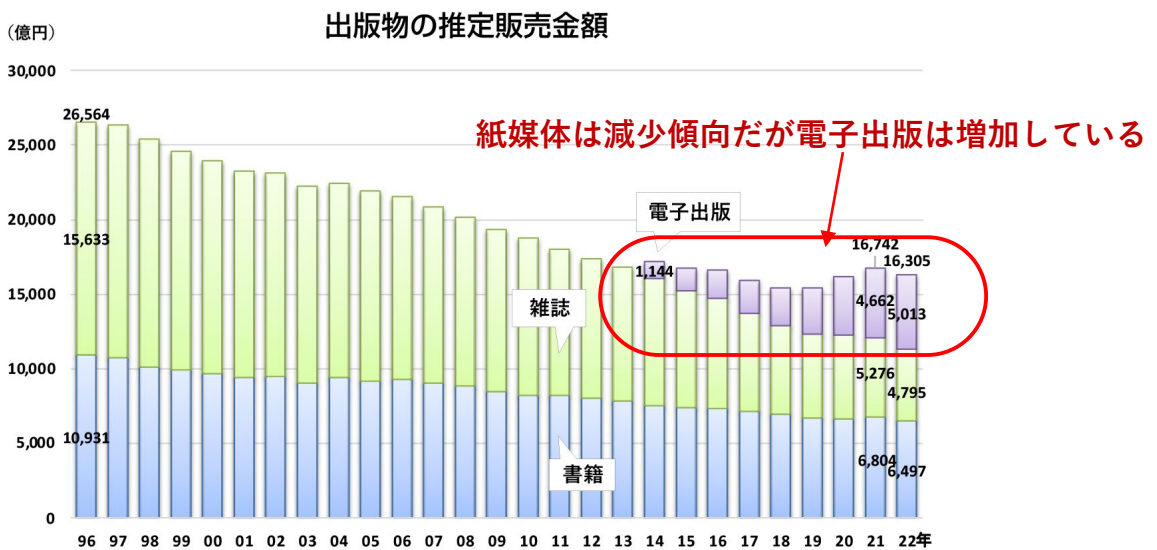


(一般社団法人日本動画協会 アニメ産業レポート 2023 サマリー版) 抜粋

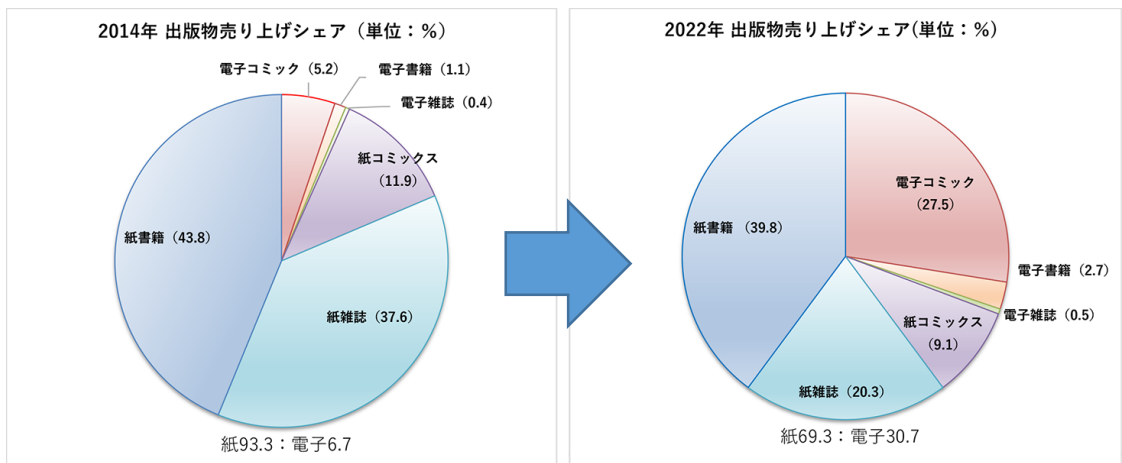


インターネット広告がマスコミ4媒体を逆転

出典：電通 日本の広告費



出典：『出版指標年報2023年版』



(是正事項) 芸術学部 造形学科、デザイン学科

2. 造形学科及びデザイン学科の施設・設備について、「学則の変更の趣旨等を記載した書類(本文)」p.4の「(4) 大学全体の施設・設備の変更内容について」において、本学の施設・設備は、平成27年度以前の収容定員778名に対応した施設であり、収容定員の増加に対応できることを説明しているが、平成27年度以前からの教育課程等の変更の有無については説明されておらず、当該説明のみをもって、収容定員の増加に対して、両学科の施設・設備が教育に支障なく適切に整備されているとは判断することができない。このため、造形学科及びデザイン学科の施設・設備が教育内容に即して十分であることについて、明確かつ具体的に説明することにより、収容定員増加後の教育研究に支障がないことについて明らかにすること。

(対応) 造形学科及びデザイン学科の施設・設備について、教育内容に即して十分であり、収容定員増加後の教育研究に支障がないことについて、以下の通り説明する。

平成26年度まで、当時の学びの領域として、造形学科(入学定員85名、編入学定員16名、収容定員372名)は6領域(日本画、油画、版画、彫刻、工芸、メディアアート)、デザイン学科(入学定員95名、編入学定員13名、収容定員406名)は7領域(グラフィックデザイン、イラストレーション、映像アニメーション、ウェブデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、観光デザイン)に区分されていた。以後、領域の統廃合及び、新領域の開設を行い、現行は造形学科3領域(日本画・古画、油画・版画、複合)と、デザイン学科6領域(グラフィックデザイン、イラストレーション、キャラクターデザイン、観光デザイン、生活プロダクト、染織・テキスタイル)の教育課程としている。造形学科6領域の学びを3領域に、デザイン学科7領域の学びを6領域に再編することによって、領域ごとに細分化されていたスペースを見直し再配分するとともに、重複する機材の統廃合や機器の更新を行いながら省スペース化を推進してきたことにより、効率的なスペース使用が可能となっている。今回の収容定員増加後も現行の造形学科3領域、デザイン学科6領域の学びを継続するための必要な施設・設備を有しているのに加え、近年、教育機器のデジタル化が急速に進展したことで、特にデザイン学科学生制作環境の省スペース化が進んでおり、デジタル化への対応のため、実習室、講義室等の全教室への無線LANの配備、全学生へのAdobe社のソフトウェア最新版及びMicrosoft社のOfficeソフトウェア最新版の無償提供、プロジェクターの増設や更新等を進めてきた。主として大学全体で使用する実習室は、造形学科総面積約3,600㎡、デザイン学科総面積約3,880㎡、合計で総面積約7,480㎡となり、大学設置基準に必要な校舎面積7,462㎡を実習室で充足している。講義系教室は、総面積約2,000㎡16教室で、収容定員増加後も運用については問題のない状況である。しかしながら、今後も引き続き、教育環境の維持充実を図るため、計画的に施設・設備の点検を図り、教育の質向上に努めていく。

以上の説明により、以下の通り「学則の変更の趣旨等を記載した書類(本文)」を修

正する。

(新旧対照表) 学則の変更の趣旨等を記載した書類 5～6ページ

新	旧
<p>大学全体の施設・設備の変更は予定していない。今回の収容定員変更により、芸術学部全体の収容定員数560名から740名になるが、<u>本学の施設・設備は、平成26年度までの造形学科入学定員85名、編入学定員16名、デザイン学科入学定員95名、編入学定員13名、大学全体の入学定員180名、収容定員778名に対応した施設であり、収容定員増に対応できると考える。</u></p> <p>本学は、併設する嵯峨美術短期大学(収容定員300名)とキャンパスを共有しており、共有する校地面積は26,169㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率(71%)をかけた18,318㎡が本学の校地面積となる。大学設置基準上必要とされる完成年度の校地面積は7,400㎡となっている。また大学設置基準上必要とされる校舎面積は7,462㎡となっており、共有する校舎面積は合計28,476㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率(71%)をかけた20,217㎡が本学の校舎面積となる。</p> <p><u>平成26年度までの本学の教育課程は、造形学科(収容定員372名)は6領域(日本画、油画、版画、彫刻、工芸、メディアアート)、デザイン学科(収容定員406名)は7領域(グラフィックデザイン、イラストレーション、映像アニメーション、ウェブデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、観光デザイン)に区分されていた。主として大学全体が利用する校舎面積に変更はない。以後、領域の統廃合及び、新領域の開設を行い、現行は造形学科3領域(日本画・古画、油画・版画、複合)と、デザイン学科6領域(グラフィックデザイン、イラストレーション、キャラクターデザイン、観光デザイン、生活プ</u></p>	<p>大学全体の施設・設備の変更は予定していない。今回の収容定員変更により、芸術学部全体の収容定員数560名から740名になるが、<u>本学の施設・設備は、平成27年度以前の入学定員180名、収容定員778名に対応した施設であり、収容定員増に充分対応できるものと思われる。</u></p> <p>本学は、併設する嵯峨美術短期大学(収容定員300名)とキャンパスを共有しており、共有する校地面積は26,169㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率(71%)をかけた18,318㎡が本学の校地面積となる。大学設置基準上必要とされる完成年度の校舎面積は7,400㎡となっており、<u>充分充足している。</u>また大学設置基準上必要とされる校舎面積は7,462㎡となっており、共有する校舎面積は合計28,476㎡で、嵯峨美術大学としての按分比率(71%)をかけた20,217㎡が本学の校舎面積となる。</p> <p>(追加)</p>

ロダクト、染織・テキスタイル) の教育課程としている。造形学科 6 領域の学びを 3 領域に、デザイン学科 7 領域の学びを 6 領域に再編することによって、領域ごとに細分化されていたスペースを見直し再配分するとともに、重複する機材の統廃合や機器の更新を行いながら省スペース化を推進してきたことにより、効率的なスペース使用が可能となっている。今回の収容定員増加後も現行の造形学科 3 領域、デザイン学科 6 領域の学びを継続するための必要な施設・設備を有しているのに加え、近年、教育機器のデジタル化が急速に進展したことで、特にデザイン学科学生制作環境の省スペース化が進んでおり、デジタル化への対応のため、実習室、講義室等の全教室への無線 LAN の配備、全学生への Adobe 社のソフトウェア最新版及び Microsoft 社の Office ソフトウェア最新版の無償提供、プロジェクターの増設や更新等を進めている。主として大学全体で使用する実習室は、造形学科総面積約 3,600 m²、デザイン学科総面積約 3,880 m²、合計で総面積約 7,480 m²となり、大学設置基準に必要な校舎面積 7,462 m²を実習室で充足している。講義系教室は、総面積約 2,000 m² 16 教室で、収容定員増加後も運用については問題のない状況である。しかしながら、教育環境の維持充実を図るため、今後も計画的に施設・設備の点検を図り、引き続き教育の質向上に努めていく。